

2025 年度

介 護 福 祉 学 科

- ・ 教育課程表
- ・ 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表
- ・ 授業概要（シラバス）

IGL医療福祉専門学校

介護福祉学科 教育課程表

分野	授業科目	指定 時間数	区分	必修時間数						単位数
				分野計	科目計	第 1 学年		第 2 学年		
						前期	後期	前期	後期	
人間 と 社会	人間の尊厳と自立	(240)	講義	(30)	(30)	(30)				2
	人間関係とコミュニケーション A		講義	(60)	(30)	(30)				2
	人間関係とコミュニケーション B		講義		(30)					2
	社会の理解 A		講義	(60)	(30)		(30)			2
	社会の理解 B		講義		(30)		(30)			2
	食物栄養学		講義	(30)	(30)		(30)			2
	倫理学		講義	(30)	(30)				(30)	2
	レクリエーション概論		講義	(30)	(30)			(30)		2
	小 計	(240)		(240)	(240)	(60)	(90)	(60)	(30)	16
介護	介護の基本 A	(180)	講義	(180)	(30)	(30)				2
	介護の基本 B		講義		(30)	(30)				2
	介護の基本 C		講義		(30)		(30)			2
	介護の基本 D		講義		(30)			(30)		2
	介護の基本 E		講義		(30)			(30)		2
	介護の基本 F		講義		(30)				(30)	2
	コミュニケーション技術 A	(60)	演習	(90)	(30)	(30)				1
	コミュニケーション技術 B		演習		(30)		(30)			1
	コミュニケーション技術 C		演習		(30)			(30)		1
	生活支援技術 A	(300)	演習	(300)	(60)	(30)	(30)			2
	生活支援技術 B		演習		(60)	(30)	(30)			2
	生活支援技術 C		演習		(30)	(30)				1
	生活支援技術 D		演習		(30)		(30)			1
	生活支援技術 E		演習		(60)			(30)	(30)	2
	生活支援技術 F		演習		(30)			(30)		1
	生活支援技術 G		演習		(30)				(30)	1
	介護過程Ⅰ	(150)	講義	(150)	(30)	(30)				2
	介護過程Ⅱ		講義		(30)		(30)			2
	介護過程Ⅲ		講義		(30)			(30)		2
	介護過程Ⅳ		講義		(30)			(30)		2
	介護過程Ⅴ		講義		(30)				(30)	2
	介護総合演習Ⅰ	(120)	演習	(120)	(30)	(30)				1
	介護総合演習Ⅱ		演習		(30)		(30)			1
	介護総合演習Ⅲ		演習		(30)			(30)		1
	介護総合演習Ⅳ		演習		(30)				(30)	1
	介護実習Ⅰ－1	(450)	実習	(450)	(45)	(45)				1
	介護実習Ⅰ－2		実習		(90)		(90)			2
介護実習Ⅰ－3	実習		(135)				(135)		3	
介護実習Ⅱ	実習		(180)					(180)	4	
小 計	(1260)		(1290)	(1290)	(285)	(300)	(345)	(360)	49	
こころ と からだ の しくみ	発達と老化の理解 A	(60)	講義	(60)	(30)	(30)				2
	発達と老化の理解 B		講義		(30)		(30)			2
	認知症の理解 A	(60)	講義	(60)	(30)	(30)				2
	認知症の理解 B		講義		(30)		(30)			2
	障害の理解 A	(60)	講義	(60)	(30)		(30)			2
	障害の理解 B		講義		(30)			(30)		2
	こころとからだのしくみ A	(120)	講義	(120)	(30)	(30)				2
	こころとからだのしくみ B		講義		(30)	(30)				2
	こころとからだのしくみ C		講義		(30)		(30)			2
	こころとからだのしくみ D		講義		(30)			(30)		2
	小 計	(300)		(300)	(300)	(120)	(120)	(60)	(0)	20
医 療 的 ケ ア	医療的ケアⅠ	(50)	講義	(98)	(34)			(34)		2
	医療的ケアⅡ		講義		(34)				(34)	2
	医療的ケアⅢ		演習		(30)				(30)	1
	小計	(50)		(98)	(98)	(0)	(0)	(34)	(64)	5
D T と就職実務			演習	(30)	(30)			(30)		1
		(1850)		(1958)	(1958)	(465)	(510)	(529)	(454)	91
選 択 科 目	人間と社会特講 A		講義	(50)	(30)			(30)		2
	人間と社会特講 B		講義		(20)				(20)	1
	介護福祉学特講 A		講義	(80)	(20)				(20)	1
	介護福祉学特講 B		講義		(20)				(20)	1
	介護福祉学特講 C		講義		(20)				(20)	1
	介護福祉学特講 D		講義		(20)				(20)	1
	こころとからだのしくみ特講 A		講義	(50)	(30)			(30)		2
	こころとからだのしくみ特講 B		講義		(20)				(20)	1
小計			(180)	(180)	(0)	(0)	(60)	(120)	10	
合 計		(1850)		(2138)	(2138)	(465)	(510)	(589)	(574)	101

2025年度「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表

介護福祉学科

授業科目名	担当教員	単位数	担当教員がどのような実務経験をもち、実務経験を生かして、どのような教育を行うのか
介護の基本A	吉村 裕子	2	特別養護老人ホームでの勤務経験をもち、介護現場での実践をもとに、現場で生かせる介護の基本的な知識・技術をわかりやすく指導する。
介護の基本B	吉村 裕子	2	特別養護老人ホームでの勤務経験をもち、介護現場での実践をもとに、現場で生かせる介護の基本的な知識・技術をわかりやすく指導する。
介護過程Ⅰ	廣田 敦子	2	介護老人福祉施設、障害者施設、福祉用具貸与事業所などでの勤務経験をもち、介護現場での実践をもとに根拠に基づいた、介護過程の展開を指導する。
社会の理解A	田中 加奈子	2	介護老人保健施設、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所などで主に相談業務の実務経験をもち、社会のしくみや制度についてわかりやすく解説を行う。
医療的ケアⅠ	小川 輝子	2	看護師資格を有し、病院勤務の経験をもち、臨床経験の知識を生かした教育に取り組んでいる。

合計

10

2025年度授業概要

必修

学科名 介護福祉学科		科目名 人間の尊厳と自立		担当者 田中 加奈子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 1 5 回	時間数(単位数) 3 0 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 学年 前期 後期	
[授業の目的・ねらい] 人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う。					
[授業全体の内容の概要] 介護福祉を実践するために必要な人間に対する基本的理解を養う。一つは福祉理念の歴史的変遷を学ぶことを通し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を養う。また、本人主体の観点から自立の考え方、自立生活の理解を通しその生活を支える必要性を理解する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 人権思想・福祉理念の歴史的変遷を理解し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を養う。人間にとっての自立の意味と、本人主体の観点から、尊厳の保持や自己決定の考え方を理解できるようにする。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 オリエンテーション 2 人間の尊厳と利用者主体 3 人権思想の潮流とその具現化 4 人権や尊厳に関する日本の諸規定 5 社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷① 6 社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷② 7 人権尊重と権利擁護① 8 人権尊重と権利擁護② 9 自立とは 10 介護を必要とする人々の自立と自立支援① 11 介護を必要とする人々の自立と自立支援② 12 介護を必要とする人の尊厳の保持と自立、自立支援の関係性① 13 介護を必要とする人の尊厳の保持と自立、自立支援の関係性② 14 事例検討 15 まとめ					
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座 1 人間の理解 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] ・期末試験と授業点(授業態度、提出物)の総合評価		

2025年度授業概要

必修

学科名 介護福祉学科		科目名 人間関係とコミュニケーションA		担当者 田中 加奈子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)		配当学年・時期 1 学年 前期 後期
[授業の目的・ねらい] 対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する。 [授業全体の内容の概要] 自己理解、他者理解をもとに対人関係とコミュニケーションについて学習する。また、コミュニケーションの技法の基礎を学び、基本的態度や援助関係の原則について演習を通して理解する。さらに、チームで働くにあたって必要となる組織におけるコミュニケーションの特徴や組織内で求められるコミュニケーションについて学習する。 [授業修了時の達成課題 (到達目標)] 人間関係を形成するために必要な心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能を理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 オリエンテーション 2 自分と他者の理解 3 自己覚知について① 4 自己覚知について② 5 発達心理学からみた人間関係、社会心理学からみた人間関係 6 人間関係とストレス 7 対人関係におけるコミュニケーション 8 対人援助関係とコミュニケーション① 9 実習に必要なコミュニケーション 10 対人援助関係とコミュニケーション② 11 組織におけるコミュニケーション① 12 組織におけるコミュニケーション② 13 まとめ 14 プレゼンテーション① 15 プレゼンテーション②					
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座 1 人間の理解 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] ・期末試験と授業点(授業態度、提出物)の総合評価		

I G L医療福祉専門学校

2025年度授業概要

必修

学科名 介護福祉学科		科目名 人間関係とコミュニケーションB		担当者 田中 加奈子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)		配当学年・時期 1 学年 前期 後期
[授業の目的・ねらい] 介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的知識を理解し、チームで働くための能力を養う。					
[授業全体の内容の概要] ヒューマンサービスとしての介護サービスの特徴を踏まえ、チーム運営の基本や人材育成の管理法の基礎を学ぶ。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用などの人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップなど、チーム運営の基本を理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 オリエンテーション 2 プレゼンテーションについて 3 ヒューマンサービスとしての介護サービス 4 介護現場で求められるチームマネジメント 5 介護実践におけるチームマネジメントの取り組み 6 ケアを展開するためのチームマネジメント① 7 ケアを展開するためのチームマネジメント② 8 ケアを展開するためのチームマネジメント③ 9 ケアを展開するためのチームマネジメント④ 10 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント① 11 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント② 12 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント③ 13 組織の目標達成のためのチームマネジメント① 14 組織の目標達成のためのチームマネジメント② 15 まとめ					
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座 1 人間の理解 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] ・期末試験と授業点(授業態度、提出物)の総合評価		

I G L 医療福祉専門学校

2025年度授業概要

必修

学科名 介護福祉学科		科目名 社会の理解A		担当者 田中 加奈子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)		配当学年・時期 1学年 前期 後期
[授業の目的・ねらい] 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える。対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する。日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する。					
[授業全体の内容の概要] 生活の基本機能とライフサイクルの変化及び家族、社会、組織、地域社会の概念を理解する。地域共生社会の実現に向けた制度や施策、社会保障制度などについて学ぶ。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 生活と社会のかかわりについて理解できる。地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方が理解できる。社会保障制度の基本的な考え方としくみ、社会保障の現状と課題を理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 オリエンテーション 2 生活の基本機能、ライフスタイルの変化 3 家族の機能と役割、社会・組織の機能と役割 4 地域、地域社会、地域社会における生活支援 5 地域福祉の発展 6 地域共生社会、地域包括ケア 7 社会保障の基本的な考え方 8 日本の社会保障制度の発達 9 日本の社会保障制度のしくみ① 10 日本の社会保障制度のしくみ② 11 日本の社会保障制度のしくみ③ 12 日本の社会保障制度のしくみ④ 13 現代社会と社会保障制度 14 高齢者保健福祉の動向 15 高齢者保健福祉に関連する法体系・まとめ					
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座 2 社会の理解 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] ・期末試験と授業点(授業態度、提出物)の総合評価		

2025年度授業概要

必修

学科名 介護福祉学科		科目名 社会の理解B		担当者 田中 加奈子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)		配当学年・時期 2学年 前期 後期
[授業の目的・ねらい] 高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を習得する。					
[授業全体の内容の概要] 高齢者福祉制度、障害者福祉制度、介護実践に関連する諸制度のしくみや現状と課題について概説する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 高齢者福祉制度、障害者福祉制度、介護実践に関連する諸制度について説明ができ、活用できるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 オリエンテーション、介護保険制度① 2 介護保険制度② 3 介護保険制度③ 4 介護保険制度④ 5 介護保険制度⑤ 6 障害者保健福祉 7 障害者総合支援制度① 8 障害者総合支援制度② 9 障害者総合支援制度③ 10 障害者総合支援制度④ 11 個人の権利を守る制度・施策① 12 個人の権利を守る制度・施策② 13 保健医療に関する制度・施策 14 貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策 15 地域生活を支援する制度・施策、まとめ					
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座 2 社会の理解 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] ・期末試験と授業点(授業態度、提出物)の総合評価		

2025年度授業概要

必修

学科名 介護福祉学科		科目名 食物栄養学		担当者 川口 准子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)		配当学年・時期 1 学年 前期 後期
[授業の目的・ねらい] 生きていくためには食事は欠かせないものです。特に高齢者や障害者の方にとって食べること（栄養）は大切な事と考えますので、高齢者や障害者の方の栄養について学んでいきます。					
[授業全体の内容の概要] 五大栄養素の働き、欠乏症、高齢者や障害者の食形態、摂食・嚥下、誤嚥、治療食、アレルギー食 介護福祉士国家試験の過去問題					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 人の身体の仕組みや栄養素と代謝について学びその人らしい生活を支えられるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1、 オリエンテーション・自己紹介(全員)・バランスの良い食事 2、 人体のしくみ 3、 三大栄養素(糖質) 4、 三大栄養素(脂質) 5、 三大栄養素(たんぱく質) 6、 五大栄養素(ビタミン) 7、 五大栄養素(ミネラル) 8、 水と食物繊維 9、 消化と吸収 10、 エネルギー代謝 11、 食物アレルギー 12、 衛生管理・食中毒 13、 献立・調理の仕方（実演） 14、 摂食・嚥下（実演） 15、 国家試験過去問題の解説					
[使用テキスト・参考文献] はじめて学ぶ健康・栄養系教科書シリーズ5 基礎栄養学 化学同人社			[単位認定の方法及び基準] 後期試験と授業点(授業態度・小テスト等)の 総合評価		

2025年度授業概要

必修

学科名 介護福祉学科		科目名 倫理学		担当者 西井 美穂	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)		配当学年・時期 2学年 前期 後期
[授業の目的・ねらい] 「よく生きる」ということが倫理学の広義の主題である。これを単なる理論にとどめず、自らの生活実践に結びつけることが重要であるとする。自己と他者の関係性の「対話」を重視し、講義で学び考えたことが実践となりうることを目的とする。					
[授業全体の内容の概要] 「よく生きる」と「自分ならどう生きるか」をキーワードに、自己と他者の関係性を具体的事例から「哲学対話」を通して考える。哲学者マルチン・ブーバーを中心とした「対話」の哲学を学びながら、日常生活に生かすという理論と実践の統合された内容					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] これまでの自他関係の反省的考察 (「自覚」) と、自己の世界観の広がりが目標である。「対話」の意味を理解し、自己と他者の平和的関係性の構築への応用。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1	哲学・倫理学とは何か: 根本的な特徴についての理解				
2	哲学体験としての「ゆらぎ」について・「ゆらぎ体験」についての小論文を書く				
3	哲学対話について				
4	自由とは何か ① *資料 DVD『小さな哲学者たち』				
5	自由とは何か ② 他者とともに自由になることとは				
6	「聞く」ということ・「受けとめる」ということ *梶谷真司『考えるということ』				
7	対話的關係について *資料 DVD『地球交響曲 4番(人類学者ジェーン・グドール)』				
8	対話の不在 *資料 「相模原障害者殺傷事件」についてのさまざまな立場からの記事				
9	「障害」とは・「障害」と向き合う *資料 アメリカ障害者法改正の動きと障害者について				
10	授業内レポート 自分が自由を感じる時				
11	死生学 *資料 ドキュメンタリー キューブラ・ロス『死の瞬間と死後の世界』 死の五段階説				
12	キューブラ・ロス 自分の中のヒトラー				
13	映画『栞』 テーマ 死と生 絶望と希望				
14	*感想 / 医療従事者として「聞く」「受けとめる」ということ				
15	対話と沈黙 マルチン・ブーバー/ 西田幾多郎/ ティック・ニヤット・ハン				
[使用テキスト・参考文献] 梶谷真司『考えるということ』冬幻舎、2018 西研『哲学のモノサシ』NHK ブックス。1996 キューブラ・ロス『死の瞬間と死後の生』中公文庫、2013			[単位認定の方法及び基準] 授業内レポート (2回) と試験 70% プリント記入や授業参加の積極性など 30%		

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 介護福祉学科		科目名 レクリエーション概論		担当者 徳弘 幸男	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 1 5 回	時間数(単位数) 3 0 時間 (2 単位)		配当学年・時期 2 学年 前期 後期
[授業の目的・ねらい] ①レクリエーション活動の社会的意義と介護での意義を理解させる。 ②レクリエーション活動の援助者としての役割について理解させる。 ③レクリエーション計画の作成能力を習得向上させる。 ④レクリエーション活動の実践援助能力を習得向上させる。 [授業全体の内容の概要] ワークショップ等を多用し理解を深める。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] レクリエーションの考え方を習得しさまざまな事象を解決する力を習得する。ホスピタリティーを常に実践力を習得する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. オリエンテーション・レクリエーション概念 2. レクリエーションのもつ意味 3. レクリエーション主体 4. 生活とレクリエーション 5. レクリエーションと安全 6. レクリエーションとホスピタリティー 7. 生活のレクリエーション化とレクリエーションの生活化 8. レクリエーションの動機付け 9. レクリエーションの適正条件 10. レクリエーション計画・実施・評価 11. セラピューティックレクリエーション 12. レクリエーション援助活動の実際 13. レクリエーション援助者の役割 14. 利用者のレクリエーション援助① 15. 利用者のレクリエーション援助②					
[使用テキスト・参考文献] 初回配布の冊子			[単位認定の方法及び基準] 期末テスト、授業態度による		

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 介護福祉学科		科目名 介護の基本A		担当者 吉村 裕子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 1 5 回	時間数(単位数) 3 0 時間 (2 単位)		配当学年・時期 1 学年 前期 後期
[目的・ねらい]					
・ 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。					
・ 「介護とは何か」「介護の歴史」を知ること、介護福祉士としての基礎的な知識を習得する。					
[内容の概要]					
・ 介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援など、介護実践の基礎となる知識を学ぶ。					
[修了時の達成課題（到達目標）]					
・ 生活支援を行う介護福祉士の役割や専門性について説明することが出来る。					
・ 介護福祉士が行う支援の意義や目的を説明することが出来る。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
1. オリエンテーション・介護福祉士とは					
2. 介護福祉を取り巻く状況①					
3. 介護福祉を取り巻く状況②					
4. 介護福祉を取り巻く状況③					
5. 介護福祉の歴史①					
6. 介護福祉の歴史②					
7. 介護福祉の歴史③					
8. 介護福祉の歴史④					
9. 介護福祉の歴史⑤					
10. 介護福祉の歴史⑥					
11. 介護福祉の歴史⑦					
12. 介護福祉の基本理念					
13. 尊厳を支える介護					
14. 自立を支える介護					
15. まとめ					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
最新介護福祉士養成講座 3 「介護の基本Ⅰ」 第2版			前期末試験と授業点(提出物等)における総合評価		

I G L 医療福祉専門学校

学科名 介護福祉学科		科目名 介護の基本B		担当者 吉村 裕子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 1 5 回	時間数(単位数) 3 0 時間 (2 単位)		配当学年・時期 1 学年 前期 後期
[目的・ねらい]					
・ 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。					
[内容の概要]					
・ 介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能である、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援など、介護実践の基礎となる知識を学ぶ。					
[修了時の達成課題（到達目標）]					
・ 支援を必要とする人の生活を知り、生活を送る中で生じる生活障害について理解を深める。					
・ 介護福祉士として、利用者の状況に応じた介護の在り方について理解する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
1. オリエンテーション					
2. 私たちの生活の理解①					
3. 私たちの生活の理解②					
4. 介護福祉を必要とする人たちの暮らし①					
5. 介護福祉を必要とする人たちの暮らし②					
6. 介護福祉を必要とする人たちの暮らし③					
7. 介護福祉を必要とする人たちの暮らし④					
8. 「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解①					
9. 「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解②					
10. 生活のしづらさの理解とその支援①					
11. 生活のしづらさの理解とその支援②					
12. 生活のしづらさの理解とその支援③					
13. 生活のしづらさの理解とその支援④					
14. 生活のしづらさの理解とその支援⑤					
15. まとめ・前期末試験について					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
最新介護福祉士養成講座4「介護の基本Ⅱ」第2版			前期末試験と授業点(提出物等)における総合評価		

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 介護福祉学科		科目名 介護の基本C		担当者 柏 明宏
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数 1 5 回	時間数(単位数) 3 0 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 学年 前期 後期	
[目的・ねらい] ・介護福祉士の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解し、介護福祉士の専門職として能力と態度を養う。 [内容の概要] ・介護福祉士の役割と機能では、社会福祉士及び介護福祉士法、介護福祉士の活動と活躍の場と役割、介護福祉士に求められる役割とその養成、介護福祉士を支える団体を通じて地域や施設・在宅の場、介護予防や看取り、災害時等の場面や状況における介護福祉士の役割と機能、さらに社会福祉士及び介護福祉士法に関する諸規定について習得する。また、介護福祉士の倫理では、介護福祉士の倫理、日本介護福祉士協会の倫理綱領を通じて、介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を形成する。 [修了時の達成課題（到達目標）] ・地域や施設・在宅の場や、介護の看取り、災害発生時等の場面や状況における介護福祉士の役割と機能を理解する。また、介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職として態度を養う。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. オリエンテーション 介護福祉士の役割機能について 2. 社会福祉士及び介護福祉士法について① 3. 社会福祉士及び介護福祉士法について② 4. 介護福祉士の活動の場と役割① 5. 介護福祉士の活動の場と役割② 6. 介護福祉士に求められる役割とその養成① 7. 介護福祉士に求められる役割とその養成② 8. 介護福祉士を支える団体① 9. 介護福祉士を支える団体② 10. 介護福祉士の倫理① 11. 介護福祉士の倫理② 12. 日本介護福祉士会の倫理綱領① 13. 日本介護福祉士会の倫理綱領② 14. 倫理綱領の実践 15. まとめ（振り返り）				
[使用テキスト・参考文献] 最新介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅰ」中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 定期試験、課題の提出、出欠席、授業態度等総合的に評価、判断する。	

学科名 介護福祉学科		科目名 介護の基本D		担当者 橋口 直樹	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 2学年 前期 後期	
[授業の目的・ねらい] ・介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。					
[授業全体の内容の概要] ・介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応を理解する内容とする。 ・介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解する内容とする。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ・介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応を理解できるようにする。 ・介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解できるようにする。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 オリエンテーション 安心・安全のイメージ 介護における安全の確保① 2 介護における安全の確保② 3 リスクマネジメントとは何か① 4 リスクマネジメントとは何か② 5 リスクマネジメントとは何か③ 6 リスクマネジメントとは何か④・感染症対策① 7 感染症対策② 8 感染症対策③ 9 感染症対策④・健康管理の意義と目的① 10 健康管理の意義と目的② 11 ころの健康管理① 12 ころの健康管理②・身体の健康管理① 13 身体の健康管理② 14 労働環境の整備① 15 労働環境の整備②・まとめ					
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験及び授業態度、提出物、出欠席にて判定		

学科名 介護福祉学科		科目名 介護の基本E		担当者 柏 明宏	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 15 回	時間数(単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 2 学年 前期 後期	
[授業の目的・ねらい] 介護福祉を必要とする人の生活を支える仕組みでは、介護を必要とする人の生活を支援するという観点から、フォーマルおよびインフォーマルな支援、地域連携について事例を用いて学びを深める。					
[授業全体の内容の概要] ・ 利用者の生活を支える仕組みを学ぶ。 ・ 生活を支えるフォーマルサービス（社会的サービス・私的サービス）を学ぶ。 ・ 地域連携について学ぶ。 ・ 多職種連携・協働の必要性について学ぶ。 ・ 多職種連携・協働に求められる基本的な能力を身につける。 ・ 保健・医療・福祉職の役割と機能。 ・ 多職種連携・協働の実践について学ぶ。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・ 介護サービスや地域連携など、フォーマル・インフォーマルな支援を理解し、介護サービスの特性について理解することが出来る。 ・ 多職種連携・協働の機能と役割を理解し、介護福祉士として役割を説明することが出来る。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. オリエンテーション 介護サービスを学ぶにあたって 2. 利用者の生活を支える仕組み 3. 生活を支えるフォーマルサービス（社会的サービス）とは① 4. 生活を支えるフォーマルサービス（社会的サービス）とは② 5. 生活を支えるインフォーマルサービス（私的サービス）とは 6. 地域連携について① 7. 地域連携について② 8. 多職種連携・協働の必要性 9. 多職種連携・協働に求められる基本的な能力① 10. 多職種連携・協働に求められる基本的な能力② 11. 保険・医療・福祉職の役割と機能① 12. 保険・医療・福祉職の役割と機能② 13. 多職種連携・協働の実践① 14. 多職種連携・協働の実践② 15. まとめ（振り返り）					
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 定期試験、課題の提出、出欠席、授業態度総合的に評価、判断する。		

学科名 介護福祉学科		科目名 介護の基本F		担当者 香川 寛	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 15 回	時間数(単位数) 30 時間 (2単位)		配当学年・時期 2学年 前期 後期
[授業の目的・ねらい] 尊厳の保障、自立支援という介護の考え方を理解するとともに、介護を必要とする人の生活をリハビリテーションの観点から捉え、支援するための学習。また機能維持や重度化予防のためのケア等について理解するための学習とする。					
[授業全体の内容の概要] 介護の基本理念としての「自立支援」の考え方とリハビリテーションの視点を取り入れた支援の方法、また現場での尊厳や職業人としての倫理などを座学だけでなく実習を通して学んでいく。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 専門職としての基本的考え方や姿勢の根幹となる「尊厳の保障」「自立支援」について学習し、介護を必要とする人の生活を支える意義や実践について、自分たちの生活に照らし合わせて考えることができる。また、介護予防のためにもリハビリテーションの視点を取り入れた支援方法などを理解している。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 オリエンテーション 2 リハビリテーションとその実際 3 ノーマライゼーションと I C F 4 介護現場での 2 次障害 5 自立支援とリハビリテーションケア 6 リハビリ的立位と移乗（実技） 7 リハビリ的座位と姿勢管理（実技） 8 リハビリ的起居（実技※） 9 腰痛予防とスラディングボードでの移乗（実技※） 10 褥瘡ケアを考えたベッド上の移動（実技※） 11 スライディングシートでのベッド上の移動（実技※） 12 ポジショニング（実技※） 13 介護予防と福祉用具の活用方法 14 人権擁護と虐待 15 リハビリのための目標志向的アプローチ					
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座 3 介護の基本 I 中央法規出版 介護福祉用語辞典 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験及び授業態度、出欠席にて判定		

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 介護福祉学科		科目名 コミュニケーション技術A		担当者 吉村 裕子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 1 5 回	時間数(単位数) 3 0 時間 (1 単位)		配当学年・時期 1 学年 前期 後期
[授業の目的・ねらい] ・対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するための、コミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。					
[授業全体の内容の概要] ・人間関係とコミュニケーションで学ぶコミュニケーションの基礎的な知識を基盤に、本人及び家族とのよりよい関係性の構築や障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な知識・技術を習得する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・さまざまなコミュニケーション技法について理解し、実際に体験することでそれらを習得する。 ・実際に利用者とコミュニケーションし、記録することで自己理解の必要性について理解する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. オリエンテーション 2. 介護におけるコミュニケーションの基本① 3. 介護におけるコミュニケーションの基本② 4. 介護におけるコミュニケーションの基本③ 5. コミュニケーションの基本技術① 6. コミュニケーションの基本技術② 7. コミュニケーションの基本技術③ 8. コミュニケーションの基本技術④ 9. コミュニケーションの基本技術⑤ 10. コミュニケーションの基本技術⑥ 11. コミュニケーションの基本技術⑦ 12. コミュニケーションの基本技術⑧ 13. 家族とのコミュニケーション① 14. 家族とのコミュニケーション② 15. まとめ					
[使用テキスト・参考文献] ○最新介護福祉士養成講座5 「コミュニケーション技術」第2版			[単位認定の方法及び基準] 前期末試験と授業点(提出物等)における総合評価		

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 介護福祉学科		科目名 コミュニケーション技術B		担当者 吉村 裕子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 1 5 回	時間数(単位数) 3 0 時間 (1 単位)		配当学年・時期 1 学年 前期 後期
[授業の目的・ねらい]					
・ 対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。					
[授業全体の内容の概要]					
・ 人間関係とコミュニケーションで学ぶコミュニケーションの基礎的な知識を基盤に、本人及び家族とのよりよい関係性の構築や障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な知識・技術を習得する。介護におけるチームのコミュニケーションについて、情報共有の意義、活用、管理などに関する基本知識・技術を習得する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）]					
・ コミュニケーション障害に合った方法について理解し、実際実習等で体験することで、利用者個々にあった方法の重要性と、自己を振り返り、人間的に成長する姿勢を養う。					
・ 記録の必要性や、重要性を学習し、実習等で活用できる力を養う。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
1. オリエンテーション					
2. 対象者の特性に応じたコミュニケーション①					
3. 対象者の特性に応じたコミュニケーション②					
4. 対象者の特性に応じたコミュニケーション③					
5. 対象者の特性に応じたコミュニケーション④					
6. 対象者の特性に応じたコミュニケーション⑤					
7. 対象者の特性に応じたコミュニケーション⑥					
8. 対象者の特性に応じたコミュニケーション⑦					
9. 対象者の特性に応じたコミュニケーション⑧					
10. 介護におけるチームのコミュニケーション①					
11. 介護におけるチームのコミュニケーション②					
12. 介護におけるチームのコミュニケーション③					
13. 介護におけるチームのコミュニケーション④					
14. 介護におけるチームのコミュニケーション⑤					
15. まとめ					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
○最新介護福祉士養成講座5「コミュニケーション技術」			後期末試験と授業点(提出物等)の総合評価		
○最新介護福祉士養成講座8「生活支援技術Ⅲ」					

I G L 医療福祉専門学校

2025年度授業概要

必修

学科名 介護福祉学科	科目名 コミュニケーション技術C	担当者 宇佐川 弘子 小田 孝博	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2学年 前期 後期
[授業の目的・ねらい] ・手話技術を学びながら一人ひとりに合った方法を考えて、伝えあう姿勢を大切にしてほしい。 ・点字の読み方、書き方の規則を習得し、点字文を読むことができるとともに、簡単な文の点訳ができるようにする。 [授業全体の内容の概要] ・手話技術の取得と聴覚障害者のくらしを理解するためのろう者との交流。 ・点字の読み方、書き方に関する規則を習得し、点字文の読み書きを学習する。また、点字の歴史や仕組みを理解することを通して、視覚障害者(児)を正しく理解し、社会参加の状況についても学習する。 [授業修了時の達成課題 (到達目標)] ・伝えあうことを大切にする姿勢が見られる。さまざまな伝達方法の工夫をする。手話で簡単な日常会話ができる。 ・点字の規則を理解し、簡単な点字文を読み、簡単な点字文を書くことができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 聞こえについて (自己紹介をしましょう・挨拶と名前を紹介しましょう) 2 自己紹介をしましょう (住所と家族を紹介しましょう) 3 自己紹介をしましょう (趣味について話しましょう) 4 聴覚障害者とコミュニケーション方法について (介護に関する単語) 5 話しかけてみましょう (時の経過、誕生日、1日のこと、1週間のことを話しましょう) 6 まとめ (学習の要点と復習をして、振り返りを行う) 7 ろう者との交流 (聴覚障害者とのコミュニケーションで大切なことを学び理解を深める) 8 点字の歴史、点字の概要、点字器について学ぶ。清音の読み方、書き方 9 濁音、拗音などの読み方、書き方 10 アルファベットの読み方、書き方 11 数字の読み方、書き方 12 分かち書きについて 1段階 13 分かち書きについて 2段階 14 分かち書きについて 3段階 15 まとめ			
[使用テキスト・参考文献] 手話：「聴覚・言語障害者とコミュニケーション」 全国手話通訳問題研究会編・一橋出版 点字：初めての点訳 (第3版)		[単位認定の方法及び基準] 定期試験、授業態度、小テストなどを総合的に勘案して評価する。	

2025年度授業概要

必修

学科名 介護福祉学科		科目名 生活支援技術 A		担当者 橋口 直樹	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (2単位)	配当学年・時期 1 学年 前期 後期	
[目的・ねらい] 尊厳の保持の観点からどのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守りを含めた適切な生活支援技術を用いて、安全に支援できる技術や知識について学ぶ。 [内容の概要] “動く”ことは日常生活を送るうえでは必要不可欠なことである。日々の生活を安全に送ることができるための具体的な方法を学び習得する。また、支援が必要な方へ、安全で安楽な移動・移乗の介助方法について必要な技術を習得し、必要な福祉用具の選択が出来るようになる。 [修了時の達成課題 (到達目標)] 1. ICFの視点に基づいた生活支援を行うことが出来る。 2. 移動の意義・目的を理解し、説明することが出来る。 3. 移動介助を必要とする方の状態を把握し、適切な介助法を選択し、その根拠を説明する事が出来る。 4. 個別性を考慮した安全・安楽な移動・移乗の介助方法について説明することが出来る。 5. 福祉用具の均衡を理解し、適切な用具を自分で考え選択することが出来る。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. オリエンテーション 生活支援の理解 2. 生活支援の理解・ベッドメイキング 3. 生活支援の理解・ベッドメイキング 4. 生活支援の理解・ベッドメイキング 5. 生活支援の理解・ベッドメイキング 6. 生活支援の理解 7. 自立に向けた移動の介護～意義と目的 8. 自立に向けた移動の介護～移動・移乗の基礎① 9. 自立に向けた移動の介護～移動・移乗の基礎② 10. 自立に向けた移動の介護～移動・移乗の基礎③ 11. 自立に向けた移動の介護～移動・移乗の基礎④ 12. 自立に向けた移動の介護～移動・移乗の基礎⑤ 13. 自立に向けた移動の介護～移動・移乗の基礎⑥ 14. 自立に向けた移動の介護～移動・移乗の基礎⑦ 15. 前期のまとめ・振り返り 16. 自立に向けた移動の介護～移動・移乗の基礎⑧ 17. 自立に向けた移動の介護～移動・移乗の基礎⑨ 18. 自立に向けた移動の介護～移動・移乗の基礎⑩ 19. 自立に向けた移動の介護～移動・移乗の基礎⑪ 20. 自立に向けた移動の介護～移動・移乗の基礎⑫ 21. 移動の介護における他職種との連携① 22. 移動の介護における他職種との連携② 23. 障害に応じた生活支援技術①					

24. 障害に応じた生活支援技術② 25. 福祉用具の意義① 26. 福祉用具の意義② 27. 福祉用具の意義③ 28. 福祉用具の意義④ 29. 福祉用具の意義⑤ 30. 福祉用具の意義⑥・まとめ・振り返り	
[使用テキスト・参考文献] ○最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ ○最新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ	[単位認定の方法及び基準] 確認テスト、期末試験及び授業態度、 提出物、出欠席にて総合的に評価する。

I G L 医療福祉専門学校

学科名 介護福祉学科		科目名 生活支援技術B		担当者 吉村 裕子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (2単位)	配当学年・時期 1 学年 前期 後期	
[授業の目的・ねらい]					
・ 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。					
[授業全体の内容の概要]					
・ ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、身じたく、休息・睡眠における介護の意義と活用について基礎的な知識・技術を学ぶ。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）]					
・ 対象となる人の生活の状況を整理し、ニーズの優先順位を考えることができる。					
・ ICFの視点にもとづいて、身じたく・休息、睡眠についての意義と目的を説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
1. 自立した身じたくとは					
2. 自立に向けた身じたくの介護①（洗顔・整髪の介助）					
3. 自立に向けた身じたくの介護②（ひげそり・爪の手入れの介助）					
4. 自立に向けた身じたくの介護③（耳の清掃の介助・化粧）					
5. 自立に向けた身じたくの介護④（口腔ケア）					
6. 自立に向けた身じたくの介護⑤（口腔ケア）					
7. まとめ・確認小テスト					
8. 休息・睡眠の介護①（休息・睡眠とは）					
9. 休息・睡眠の介護②（安眠を阻害する要因）					
10. 休息・睡眠の介護③（安眠をうながす介護をするために介護福祉職がすべきこと）					
11. 休息・睡眠の介護④（室内環境の調整）					
12. 休息・睡眠の介護⑤（睡眠障害とその支援①）					
13. 休息・睡眠の介護⑥（睡眠障害とその支援②）					
14. 利用者の状態・状況に応じた休息・睡眠の介助の留意点					
15. まとめ・確認小テスト					
16. 衣服の着脱の介助					
17. 自立に向けた身じたくの介護①（座位での着脱介助）					
18. 自立に向けた身じたくの介護②（座位での着脱介助）					
19. 自立に向けた身じたくの介護③（座位での着脱介助）					
20. 自立に向けた身じたくの介護④（座位での着脱介助）					
21. 休息・睡眠環境を整える・ベッドメイキング①					
22. ベッドメイキング②					
23. 自立に向けた身じたくの介護⑤（ベッド上での着脱介助）					

24. 自立に向けた身じたくの介護⑥（ベッド上での着脱介助）
25. 自立に向けた身じたくの介護⑦（ベッド上での着脱介助）
26. 自立に向けた身じたくの介護⑧（ベッド上での着脱介助）
27. 自立に向けた身じたくの介護⑨（ベッド上での着脱介助）
28. 自立に向けた身じたくの介護⑩（ベッド上での着脱介助）
29. 利用者の状態・状況に応じた身じたくの介助の留意点
30. まとめ・他職種連携について

[使用テキスト・参考文献]

最新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ
 最新介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ

[単位認定の方法及び基準]

後期末試験と確認小テスト、授業点(学内実習記録等も含む提出物)における総合評価

学科名 介護福祉学科		科目名 生活支援技術C		担当者 吉村 裕子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 15 回	時間数(単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 1 学年 前期 後期	
[授業の目的・ねらい] ・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。 ・個人のプライバシー保護の観点や楽しみとなる入浴について考える力を養う。 ・利用者の立場から「より良い入浴・清潔保持の支援」を考え、介護実習、卒業後の介護福祉の現場で実践できる力を身に付ける [授業全体の内容の概要] ・入浴・清潔保持という具体的は生活支援の過程で、どのようにニーズを発見していくか、どのようにそれを具体化し、他職種と連携・協働していくか等を学習する。 [授業終了時の達成課題（到達目標）] ・入浴の意義と目的について理解し、清潔保持の重要性について説明できる。 ・必要な福祉用具を選択・活用し、利用者の状態や状況に応じた入浴の支援ができる。 ・一般浴・シャワー浴・機械浴での適切な介助方法を理解し実践できる。清拭・部分浴・陰部洗浄について適切な介助方法を理解し実践できる。 ・安全に配慮するとともに、プライバシーを確保し、その人らしさの実現や楽しみとなる入浴について考え実践できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 自立に向けた入浴・清潔保持の介助について 2. 入浴・清潔保持の意義と目的（入浴の作用と効果）について 3. 入浴・清潔保持におけるアセスメントについて 4. 入浴・清潔保持のための道具・用具 5. 入浴・清潔保持の介助の技法①手浴・足浴 6. 入浴介助演習（手浴・足浴） 7. 入浴・清潔保持の介助の技法②洗髪 8. 入浴介助演習（ベッド上洗髪） 9. 入浴・清潔保持の介助の技法③清拭 10. 入浴介助演習（ベッド上清拭） 11. 入浴・清潔保持の介助の技法④入浴・シャワー浴、機械浴 12. 入浴介助演習（特浴・シャワー浴） 13. 利用者の状態に応じた入浴・清潔保持の留意点① 14. 利用者の状態に応じた入浴・清潔保持の留意点② 15. 入浴・清潔保持における他職種の役割と協働について・まとめ					
[使用テキスト・参考文献] 最新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 最新介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ			[単位認定の方法及び基準] 前期末試験と授業点(提出物等)における総合評価とする。		

2025年度授業概要

必修

学科名 介護福祉学科		科目名 生活支援技術D		担当者 橋口 直樹	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)		配当学年・時期 1 学年 前期 後期
[授業の目的・ねらい] ・ 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。					
[授業全体の内容の概要] ・ 対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力を身につける内容とする。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・ 対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力を身につける。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. オリエンテーション 食事の意義と目的① 2. 食事の意義と目的② 3. 自立に向けた食事介護の視点① 4. 自立に向けた食事介護の視点② 5. 食事介護の基本となる知識と技術① 6. 食事介護の基本となる知識と技術② 7. 食事介護の基本となる知識と技術③ 8. 食事介護の基本となる知識と技術④ 9. 食事介護の基本となる知識と技術⑤ 10. 対象者の状態に応じた介護・留意点① 11. 対象者の状態に応じた介護・留意点② 12. 対象者の状態に応じた介護・留意点③ 13. 対象者の状態に応じた介護（調理実習） 14. 多職種との連携① 15. 多職種との連携②・まとめ					
[使用テキスト・参考文献] 最新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 最新介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ 中央法規			[単位認定の方法及び基準] 期末試験と授業点(授業態度、提出物等)及び出欠席における総合評価とする。		

I G L 医療福祉専門学校

2026年度授業概要

必修

学科名 介護福祉学科		科目名 生活支援技術E		担当者 廣田 敦子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (2単位)	配当学年・時期 2学年 前期 後期	
[目的・ねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、適切な生活環境を整え、安全な排泄動作を行うことができ、本人主体の生活が継続できるよう、必要な福祉用具の活用も考え、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。					
[内容の概要] 利用者の「生活」を捉え、介護福祉士が行う生活支援とは何かを考える。ICFの視点から、生活の豊かさや人生の楽しさを含めた支援につなげることができる。また、利用者の能力が把握でき、環境を整え、安全で安心して生活ができる環境整備と排泄に関する知識・技術を身につける。					
[修了時の達成課題（到達目標）] ・適切な居住環境を整えることができる。 ・高齢者や障がいのある方の生活環境を理解し、ICFの視点に基づいてニーズを把握する事が出来る。 ・心身の状況に応じた排泄の支援が実践できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. オリエンテーション 排泄の意義・目的 2. 自立に向けた排泄とは① 3. 自立に向けた排泄とは② 4. トイレでの排泄の介助方法① 5. トイレでの排泄の介助方法②（歩行できる利用者の介助） 6. トイレでの排泄の介助方法③（車いす利用者の介助） 7. ポータブルトイレでの排泄の介助の方法 8. 立位でのパッド交換の介助 9. 尿器、差し込み便器での排泄の介助① 10.おむつでの排泄の介助①（ベッド上でのおむつ交換の介助） 11.おむつでの排泄の介助②（ベッド上でのおむつ交換の介助） 12.排尿を困難にする排尿障害・排便を困難にする排便障害 13.その他排泄に関するさまざまな介助 14.他職種の役割と協働について 15.まとめ・小テスト 16.オリエンテーション “生活の場” とは 17.住まいの役割と機能 18.生活空間					

19. 快適な室内環境① 20. 快適な室内環境② 21. 快適な室内環境③ 22. 快適な室内環境④ 23. シーツ交換 24. 安全に暮らすための生活環境 25. 高齢者・障がい者の住まい① 26. 高齢者・障がい者の住まい② 27. 高齢者・障がい者の住まい③ 28. 居住環境の整備における多職種との連携 29. 他職種の役割と協働について 30. まとめ・振り返り	
[使用テキスト・参考文献] ○最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ ○最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ ○最新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ	[単位認定の方法及び基準] 小テスト、期末試験と授業点（授業態度・実技テスト・学内記録等提出物）等で総合的に評価する。

I G L 医療福祉専門学校

2025年度授業概要

必修

学科名 介護福祉学科		科目名 生活支援技術F		担当者 橋口 直樹	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 2学年 前期 後期	
[授業の目的・ねらい]					
・ 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。					
[授業全体の内容の概要]					
・ 生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識・技術を習得する内容とする。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）]					
・ 家事の介助の意義及び目的を理解し、自分の言葉で表現できる。 ・ 家事の介助を必要とする人の状態を把握し、適切な介助のための技術を選択することができる。 ・ 適切な家事の介助を提供とは何かを自分の言葉で説明できる。 ・ 適切な家事の介助を提供できる技術を習得している。 ・ 個性性を考慮した、介護福祉士の姿勢を習得している。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
1. オリエンテーション 家事の意義と目的①					
2. 家事の意義と目的②・自立した家事とは①					
3. 自立した家事とは②・自立に向けた家事の介護①					
4. 自立に向けた家事の介護②・対象者の状況に応じた留意点					
5. 家事支援における介護技術①（調理の介護）					
6. 家事支援における介護技術②（洗濯）					
7. 家事支援における介護技術③（そうじ、ごみ捨ての介助）					
8. 家事支援における介護技術④（裁縫）					
9. 家事支援における介護技術⑤（衣類・寝具の衛生管理）					
10. 家事支援における介護技術⑥（買い物）					
11. 家事支援における介護技術⑦（家庭経営・家計の管理）					
12. 家事支援における介護技術⑧（消費者被害）					
13. 多職種との連携①					
14. 多職種との連携②					
15. 多職種との連携③・まとめ					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
○最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ			期末試験と授業点（授業態度、提出物）及び出欠席		
○最新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ			による総合評価		
○介護福祉用語辞典					

I G L 医療福祉専門学校

学科名 介護福祉学科		科目名 生活支援技術G		担当者 吉村 裕子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 1 5 回	時間数(単位数) 3 0 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 学年 前期 後期	
[目的・ねらい] ・ 人生の最終段階にある人と家族をケアするために、終末期の経過に沿った支援や、チームケアの実践について理解する。 ・ 緊急時の対応、終末期、災害時の介護について、介護福祉士の役割を果たせる力量をつけるため知識・技術を身につける。					
[内容の概要] ・ 人生の最終段階のとらえ方を学び、人生の最終段階の介護の考え方と介護福祉職の役割を学ぶ。 ・ 人生の最終段階における意思決定のあり方を学ぶ。 ・ 死を迎える人、迎えた人とその家族への介護方法を学ぶ。 ・ 高齢者に起こりやすいおもな事故とその視点を学ぶ。 ・ 災害時における生活支援について理解する。					
[修了時の達成課題 (到達目標)] ・ 延命治療、緩和ケア、尊厳の保持とは何かを学び、意思決定のあり方を理解することができる。 ・ 終末期の心身状況を理解し、身体介助・生活援助、対話での介護支援をすることができる。 ・ 在宅・施設での他職種の連携、臨終時の介護技術、グリーフケアなど介護福祉士の役割を理解する。 ・ 災害時での心構えや、生活支援を理解する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. オリエンテーション “最期”を迎えることとは 2. 応急手当について 3. 応急手当の実際 4. 災害時における生活支援① 5. 災害時における生活支援② 6. 人生の最終段階の意義と介護の役割① 7. 人生の最終段階の意義と介護の役割② 8. 人生の最終段階における介護① 9. 人生の最終段階における介護② 10. 人生の最終段階における介護③ 11. 人生の最終段階における介護④ 12. 人生の最終段階における介護⑤ 13. 人生の最終段階における介護⑥ 14. 人生の最終段階における介護⑦ 15. 人生の最終段階の介護における多職種との連携・まとめ					
[使用テキスト・参考文献] ○新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」 ○新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」			[単位認定の方法及び基準] 後期末試験と授業点(提出物等)の総合評価		

学科名 介護福祉学科		科目名 介護過程Ⅰ		担当者 廣田 敦子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)		配当学年・時期 1 学年 前期 後期
[授業の目的・ねらい] 「介護過程」の意義と展開方法について理解する。 [授業全体の内容の概要] 本人の望む生活を実現するために、求められる支援を導くためには介護過程という思考の展開が必要である。ワークを中心に「物事を進める際の考え方」を見につける。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] ・ 介護過程の一連の流れについて説明できる。 ・ 介護過程の前提としての「ニーズを見る視点」を理解する。 ・ 情報収集の大切さを理解する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 「介護過程」の展開を学ぶ前に 2 「介護過程」の意義・目的 3 「介護過程」の全体像 4 「介護過程」とICF 5 「介護過程」の展開の理解① 6 「介護過程」の展開の理解② 7 生活支援の考え方と介護過程の必要性の理解① 8 生活支援の考え方と介護過程の必要性の理解② 9 「介護過程の理解」アセスメントとは 10 「介護過程の理解」情報収集を収集する際の留意点 11 「介護過程の理解」アセスメントの視点 12 意図的な情報収集とは 13 事例による情報収集① 14 事例による情報収集② 15 まとめ 試験について					
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座9 介護過程 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 小テスト、期末試験と授業点(授業態度、提出物)の総合評価		

学科名 介護福祉学科		科目名 介護過程Ⅱ		担当者 廣田 敦子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 1 5 回	時間数(単位数) 3 0 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 学年 前期 後期	
[授業の目的・ねらい] 本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、介護計画の立案ができるようになる。 他の科目での学びから、「その人らしい」を送ることができるよう、介護過程の展開を行う。					
[授業全体の内容の概要] 介護実習で経験したさまざまな介護の場面を振り返り、介護の実践課程を構成する要素（人的・環境、ツール）の特性や活用方法を知る。 利用者全体像を把握し、実際に介護計画を立案するまでの過程について、誰でも理解できる文章表現と発表能力の向上が図れることを重視する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・必要な専門的な知識と技術を身につけ、専門職の一員として他職種との連携を行うことの重要性を理解する。 ・アセスメントにもとづき、個々のニーズを的確に把握し、利用者にとって実行可能な介護計画を立案することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 自立に向けた介護過程の展開 2. アセスメント ～情報収集について振り返り～ 3. アセスメント ～情報の解釈・関連づけ・統合化～ 4. アセスメント ～生活課題の明確化とは～ 5. アセスメントの視点 6. アセスメントの実際 ～事例から読み取れること～ 7. アセスメントの実際 ～事例検討①～ 8. アセスメントの実際 ～事例検討②～ 9. 介護計画とは 10. 介護計画の立案 ～目標の設定①～ 11. 介護計画の立案 ～目標の設定②～ 12. 介護計画の立案 ～具体的支援の内容・方法について①～ 13. 介護計画の立案 ～具体的支援の内容・方法について②～ 14. 介護計画の立案 ～記述の方法について～ 15. まとめ					
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座9 介護過程 介護福祉用語辞典			[単位認定の方法及び基準] 期末試験、課題、出席率、授業態度で総合的に評価する。		

学科名 介護福祉学科		科目名 介護過程Ⅲ		担当者 廣田 敦子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2学年 前期 後期	
[授業の目的・ねらい] 介護過程の展開における実施・評価の重要性を理解し、その評価が適当なものであるかどうかの判断、他者の計画への正当な評価ができる。また、介護過程の展開を支える考え方を理解する。					
[授業全体の内容の概要] 介護過程を学ぶ最終段階として、模擬カンファレンスを通して協同的問題解決を中心に介護実習との相互性を活かし、実践思考とスキルの習慣を目指す。その中で専門職としての理念を構築し、アイデンティティを確立する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・ 利用者と家族への説明と同意が職業倫理にもとづいた重要項目であると理解し実行できる。 ・ アセスメントの意義を理解し、なぜそのような項目が必要なのか説明することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 介護の実施とは・実施における留意点 2. 介護実践に伴う記録 3. 評価の意義と目的 4. 評価の内容と方法 5. 介護過程の振り返り 6. 介護過程の実践的展開① 7. 介護過程の実践的展開② 8. 介護過程の実践的展開③ 9. 「介護過程」展開の実際 事例1 10. 「介護過程」展開の実際 事例検討① 11. 「介護過程」展開の実際 事例検討② 12. 「介護過程」展開の実際 事例2 13. 「介護過程」展開の実際 事例検討① 14. 「介護過程」展開の実際 事例検討② 15. まとめ					
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座9 介護過程 介護福祉用語辞典			[単位認定の方法及び基準] 期末試験、課題、出席率、授業態度で総合的に評価する。		

学科名 介護福祉学科		科目名 介護過程Ⅳ		担当者 廣田 敦子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 15 回	時間数(単位数) 30 時間 (2単位)		配当学年・時期 2 学年 前期 後期
[授業の目的・ねらい] 介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別援助計画とに関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法を理解できる。					
[授業全体の内容の概要] 実践力を養うため、事例を用いた演習や模擬カンファレンスを通して協同的問題解決を中心に、介護実習との相互性を活かし実践的思考とスキルの習得を目指す。その中で、専門職としての理念を構築し、アイデンティティを確立する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・ 他職種との連携の重要性を理解し、介護福祉士としての役割を理解できるようになる。 ・ 利用者と家族への説明と同意が、職業倫理に基づいた重要項目であると理解し実行できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 介護過程とケアマネジメント 2. ケアマネジメントとは① 3. ケアマネジメントとは② 4. ケアプランと個別援助計画の関係性 5. チームとして介護過程を展開する意義 6. チームアプローチにおける介護福祉士の役割 7. チームアプローチの実際① 8. チームアプローチの実際② 9. 介護過程の実践的展開① 10. 介護過程の実践的展開② 11. 介護過程の実践的展開③ 12. 事例検討～実習を終えて① 13. 事例検討～実習を終えて② 14. 事例検討～実習を終えて③ 15. まとめ					
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座 9 介護過程 介護福祉用語辞典			[単位認定の方法及び基準] 小テスト、課題の提出、出欠席、授業態度総合的に評価する。		

学科名 介護福祉学科		科目名 介護過程Ⅴ		担当者 廣田 敦子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 15 回	時間数(単位数) 30 時間 (2単位)		配当学年・時期 2 学年 前期 後期
[授業の目的・ねらい] 介護過程の展開を理解し、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決を習得する。実際にアセスメントツールを使用してみるにより、必要なスキルを身につける。					
[授業全体の内容の概要] 介護過程を学ぶ最終段階として、模擬カンファレンスを通して協同的問題解決を中心に、介護実習との相互性を活かし実践思考とスキルの習得を目指す。その中で専門職としての理念を構築し、アイデンティティを確立する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・ 対象者の状態・状況に応じた介護過程の展開ができる。 ・ 利用者と家族への説明が、職業倫理に基づいた重要項目であると理解し実行できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 介護過程の展開の復習・事例学習の取り組みについて 2. 利用者の生活と介護過程 3. 事例学習① 4. 事例学習② 5. 事例学習③ 6. 事例学習④ 7. 事例学習⑤ 8. 事例学習発表① 9. 事例学習発表② 10. 事例学習発表③ 11. 利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開① 12. 利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開② 13. 利用者の生活と介護過程の実践的展開① 14. 利用者の生活と介護過程の実践的展開② 15. まとめ					
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座 9 介護過程 介護福祉用語辞典			[単位認定の方法及び基準] 課題の提出、発表、出席率、授業態度等で総合的に評価する。		

2025年度授業概要

必修

学科名 介護福祉学科		科目名 介護総合演習Ⅰ		担当者 橋口 直樹	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)		配当学年・時期 1学年 前期 後期
[授業の目的・ねらい] 介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。					
[授業全体の内容の概要] 各領域で学ぶ知識と技術の統合、介護実践の科学的探究を通し、介護実習での学びを深化させるとともに、介護の専門職としての思考や態度の形成、自己教育力等を養う総合的な学習とする。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 個々の学生が持つ関心対象や疑問・不安などに焦点を当て、自信を持って実習に臨めるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数 1 オリエンテーション(自己表現)・介護総合演習で何を学ぶか・ 2 介護実習の意義と目的① 3 介護実習の意義と目的② 4 介護実習の意義と目的③ 5 介護実習準備、実習中・実習後の学び・実習先について 6 施設実習第1段階における実習目標について 7 介護福祉士の専門性と責任・役割について 施設実習第1段階における実習計画について 8 実習の心構えについて(言葉使い・マナー・態度) 10 個人情報の取り扱いについて・記録の方法について① 11 記録の方法について② 施設実習第1段階における実習中の留意点について① 12 健康管理について 施設実習第1段階における実習中の留意点について② /実習関係書類配布 13 施設実習第1段階における実習の振り返り・報告会準備 14 施設実習第1段階における実習報告会 15 施設実習第1段階における実習報告会					
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 講義・演習に合わせた提出物・授業態度で評価 授業点(報告会・提出物・授業態度・小テスト) ボランティア活動		

I G L 医療福祉専門学校

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 介護福祉学科		科目名 介護総合演習Ⅱ		担当者 橋口 直樹	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)		配当学年・時期 1学年 前期 後期
[授業の目的・ねらい] 介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。					
[授業全体の内容の概要] 専門科目で学んだことを実習先で役立てられるよう、実践に即した様々なプログラムを用意し、関心のあること・疑問・不安等をひとつひとつ解決し、自信を持って実践できるようにする。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 実践内容を、様々な生活ニーズを持った利用者に対し、多様なサービス提供の場で実践できるよう応用力を養う。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 実習先の特徴, 実習先での学び①/施設実習第Ⅰ段階②実習について 2 実習先の特徴, 実習先での学び②/施設実習第Ⅰ段階②実習について 3 実習先の特徴, 実習先での学び③/施設実習第Ⅰ段階②実習について 4 実習先の特徴, 実習先での学び④/施設実習第Ⅰ段階②実習について 5 実習先の特徴, 実習先での学び⑤/施設実習第Ⅰ段階②実習について 6 実習先の特徴, 実習先での学び⑥/施設実習第Ⅰ段階②実習について 7 施設実習第Ⅰ段階②実習について/生活支援技術の復習 8 施設実習第Ⅰ段階②実習について/実習直前準備実習関係書類配布 9 実習施設礼状作成・実習報告会準備① 10 実習報告会準備② 11 施設実習報告会・実習事後指導 12 施設実習報告会・実習事後指導 13 地域における生活支援の実態の理解 /コミュニケーションスキルについて 14 施設実習後面談指導・実習記録見直し・課題抽出・多職種との連携について 15 施設実習第Ⅰ段階③実習について/心身の健康管理について					
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 講義・演習合わせた提出物・授業態度で評価 授業点(提出物・授業態度・小テスト)		

2025年度授業概要

必修

学科名 介護福祉学科	科目名 介護総合演習Ⅲ		担当者 橋口 直樹
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 2学年 前期 後期
[授業の目的・ねらい] 介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。			
[授業全体の内容の概要] 介護実習において明確化した課題の改善に向け、校内学習との統合を図りながら介護福祉士に必要な知識・技術の向上を目指した授業を展開する。次段階実習の事前指導、援助技術、多職種との連携、緊急時の対応などを学ぶ。			
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 利用者・家族のニーズに対する介護福祉士の役割と、自立支援に向けた他職種協働の意義と役割を理解できる。授業で学んだ知識・技術を実習で展開するための学習課題を明確化できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 コミュニケーションについて／介護実習Ⅰ－③実習先について 2 多職種協働の実践について／介護実習Ⅰ－③への課題 3 記録の記入方法について／介護実習事前指導 4 介護過程について／目標設定について／介護実習事前指導 5 介護用語について／申し送りについて／介護実習事前指導 6 レクリエーション活動について／緊急時の対応について 7 実習中のヒヤリ・ハットと事故／実習関係書類配布 8 実習施設礼状作成・実習反省会準備 9 施設実習反省報告会・実習事後指導① 10 施設実習反省報告会・実習事後指導② 11 施設実習後面談指導・実習記録見直し① 12 施設実習後面談指導・実習記録見直し② 13 介護事故防止・困難事例について(グループワーク)① 14 介護事故防止・困難事例について(グループワーク)② 15 介護過程の実践的展開／ターミナルケアについて			
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] 講義・演習合わせた提出物・授業態度で評価 授業点(提出物・授業態度・小テスト)	

2025年度授業概要

必修

学科名 介護福祉学科		科目名 介護総合演習Ⅳ		担当者 橋口 直樹	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)		配当学年・時期 2学年 前期 後期
授業の目的・ねらい] 介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。 [授業全体の内容の概要] 介護実習において明確化した課題の改善に向け、校内学習との統合を図りながら介護福祉士に必要な知識・技術の向上を目指した授業を展開する。Ⅱ段階実習の事前指導、援助技術、多職種との連携、緊急時の対応などを学ぶ。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] 利用者・家族のニーズに対する介護福祉士の役割と、自立支援に向けた他職種協働の意義と役割を理解できる。授業で学んだ知識・技術を実習で展開するための学習課題を明確化できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 介護過程の実践的展開①／介護実習Ⅱ段階事前学習 2 介護過程の実践的展開②／介護実習Ⅱ段階事前学習 3 介護実習Ⅱ介護技術実技復習 4 介護実習Ⅱ段階事前学習／実習関係書類配布 5 介護実習Ⅱ振り返り・実習施設礼状作成・実習報告会準備 6 実習報告会準備 7 介護実習報告会 8 介護実習報告会・実習事後指導 9 施設実習後面談指導①・実習記録見直し① 10 施設実習後面談指導②・実習記録見直し②・介護過程について・実習まとめ 11 レクリエーション活動について、介護実践の研究について 12 介護実践の研究(グループワーク)① 13 介護実践の研究(グループワーク)② 14 介護実践の研究(グループワーク)③ 15 介護実践の研究⑤・発表・まとめ					
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 講義・演習合わせた提出物・授業態度 授業点(小テスト・実技テスト)		

I G L 医療福祉専門学校

2025年度授業概要

必修

学科名 介護福祉学科	科目名 介護実習Ⅰ－１	実習責任者 橋口 直樹 実習担当者 田中 加奈子 廣田 敦子 吉村 裕子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数	時間数(単位数) 45時間 (1単位)	配当学年・時期 1 学年 前期 後期
[実習のねらい] (1) 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。 (2) 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。 [実習の目標] ・要介護高齢者の日常生活や生活環境、疾病・障害などを理解することができる。 ・利用者と積極的にコミュニケーションを図ることができる。 ・対象者の生活と地域のかかわりを理解できる。 ・介護職の業務の流れを理解できる。 ・提供される介護内容の必要性を理解できる。 ・基本的な記録物（実習記録など）が作成できる。 ・自己目標を達成するための計画的な取り組みができる。 ・マナー・職務規定を守ることができる。 ・多様な施設・事業所の役割を理解できる。 ・介護理念・倫理について理解を深める。 ・利用者の個性を尊重した自立支援のあり方を理解できる。 ・利用者の居住環境における支援体制のあり方を理解できる。 ・利用者・家族とのコミュニケーションの実践、生活支援技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。 ・実習生としての自覚を持ち、明るい挨拶や表情で実習に取り組むことができる。利用者に対して尊重の気持ちをもち、職員に対しては積極的に学ぶ姿勢を身につける。			
[実習内容] 1 施設の職員組織、業務分担、勤務体制、介護内容の説明を受け、施設の概要を理解する。 2 利用者の一日の日課を把握し、業務の一日の流れが利用者にどのように影響しているのかを考える。 3 多くの利用者に関わり、個性を理解し、コミュニケーションの方法を学ぶ。 4 実習指導者の指導のもと、生活支援技術を見学し体験する。 5 実習指導者の指導のもと、介護福祉士としてふさわしい言葉遣い、態度、表情について指導を受ける。 6 生活支援業務を通じて、各職種の役割や連携について理解する。 7 実習で学んだこと、実施した事柄を、系統だてて記録する。 8 週1回の巡回指導を担当教員が行う。実習への取り組み、意欲、実習内容、記録の確認等 9 反省会に出席し、まとめをする。 10 提出物を確認し、実習指導者に提出する。			
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] 実習指導者により、実習評価表の評価項目に沿って評価する。（出席、実習態度、意欲、理解、記録など）	

I G L 医療福祉専門学校

別 紙 【介護実習Ⅰ-①】

＜実習先一覧＞

【介護老人福祉施設・特別養護老人ホーム】

五日市あかり園・輝き・神田山長生園・くすのき苑・後楽荘・コスモス園・

さいきせせらぎ園・慈光園・寿光園・正寿園・新生園・瀬野川ホーム・

第二ナーシングホームゆうゆう・谷和の里・千歳園・なごみの郷・

ナーシングホームゆうゆう・百楽荘・ふくだの里・蓬莱園・みくに・三篠園・

やすらぎの里・やすらぎの里広域公園・友愛園・悠悠タウン江波・

湯来保養園・陽光の家・ルンビニ園・レークサイド土師・和楽荘

【介護老人保健施設】

あけぼの・五日市幸楽苑・スカイバード・菜の花・花の丘・原・ピア観音・ひこばえ・

ベルローゼ

【障害者支援施設】

あけぼの・いくせい・太田川学園・光清学園成人部・自然の村・鈴が峰・

サンサンホーム・清風荘・ときわ台ホーム・どんぐり学園・もみじ作業所

【高齢者複合施設】

ショートステイアルペンローゼ

【広島原爆養護老人ホーム】

倉掛のぞみ園

学科名 介護福祉学科	科目名 介護実習Ⅰ－Ⅱ	実習責任者 橋口 直樹 実習担当者 田中 加奈子 廣田 敦子 吉村 裕子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数	時間数(単位数) 90時間 (2単位)	配当学年・時期 1学年 前期 後期
[実習のねらい] (1) 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。 (2) 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。 [実習の目標] ・利用者・家族とのコミュニケーションの実践、生活支援技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。 ・様々な利用者との関わりの中から、一人ひとりの特徴をつかみ、ICFの視点に立ったコミュニケーションの方法や、生活支援技術を習得する。同時に、自己覚知しながら、介護福祉士としてのあり方を理解する。 ・障害特性に応じたコミュニケーションを図ることができる。 ・障害特性や利用者のニーズに応じた介護方法を習得する。 ・対象者の生活と地域のかかわりを理解できる。 ・様々な利用者の生活像・障害像を理解できる。 ・介護実践に必要な情報を収集することができる。 ・自分の実践について他者にわかりやすく説明することができる。 ・福祉用具や福祉機器の知識や活用能力を身に付ける。 ・家族の関わりや家族支援について理解することができる。			
[実習内容] 1 施設の職員組織、業務分担、勤務体制、介護内容の説明を受け、施設の概要を理解する。 2 利用者の一日の日課を把握し、業務の流れが利用者にどのように影響しているかを考える。 3 多くの利用者に関わり、個々の利用者の特徴や障害の程度を把握し、利用者に合ったコミュニケーションの方法を考える。 4 実習指導者の指導のもと、利用者の状態にあった生活支援技術の方法を学び実施し、基本的生活支援技術を習得する。 5 実習指導者の指導のもと、介護福祉士としてふさわしい言葉遣い、態度、表情について指導を受ける。 6 生活支援技術を通じて、各職種の役割や、連携について理解する。 7 毎日の実習目標について、またその日の実践内容の中で最も重要だと思うことを5W1Hをつかって明確に記録する。記録をもとにして次の実習の取り組みに生かす。 8 週1回の巡回指導を担当教員が行う。実習への取り組み、意欲、実習内容、記録の確認等実習指導者と連携して指導に取り組む。 9 反省会に出席し、まとめをする。 10 提出物を確認し、実習指導者に提出する。			
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] 実習指導者により、実習評価表の評価項目に沿って評価する。(出席、実習態度、意欲、理解、記録など)	

別 紙 **【介護実習Ⅰ-②】**

＜実習先一覧＞

【介護老人福祉施設・特別養護老人ホーム】

五日市あかり園・輝き・神田山長生園・くすのき苑・後楽荘・コスモス園・

さいきせせらぎ園・慈光園・寿光園・正寿園・新生園・瀬野川ホーム・

第二ナーシングホームゆうゆう・谷和の里・千歳園・なごみの郷・

ナーシングホームゆうゆう・百楽荘・ふくだの里・蓬莱園・みくに・三篠園・

やすらぎの里・やすらぎの里広域公園・友愛園・悠悠タウン江波・

湯来保養園・陽光の家・ルンビニ園・レークサイド土師・和楽荘

【介護老人保健施設】

あけぼの・五日市幸楽苑・スカイバード・菜の花・花の丘・原・ピア観音・ひこばえ・

ベルローゼ

【障害者支援施設】

あけぼの・いくせい・太田川学園・光清学園成人部・自然の村・鈴が峰・

サンサンホーム・清風荘・ときわ台ホーム・どんぐり学園・もみじ作業所

【高齢者複合施設】

ショートステイアルペンローゼ

【広島原爆養護老人ホーム】

倉掛のぞみ園

2025年度授業概要

必修

学科名 介護福祉学科	科目名 介護実習Ⅰ－3	実習責任者 橋口 直樹 実習担当者 田中 加奈子 廣田 敦子 吉村 裕子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数	時間数(単位数) 135時間 (3単位)	配当学年・時期 2学年 前期 後期
[実習のねらい] (1) 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。 (2) 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。 [実習の目標] ・ 個々生活リズムや個性を理解するという視点から様々な生活の場において個別ケアを理解する。 ・ 利用者・家族とのコミュニケーションの実践、生活支援技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。 ・ 地域拠点としての施設・事業所の役割を理解する。 ・ 日常の介護業務の関わりの中から利用者をアセスメントし、的確に記録できるようになる。 ・ 利用者の全体像をとらえ、利用者の思いや願い、ニーズを把握する力を身につける。 ・ ICFの視点に立った生活支援技術を習得する。 ・ 他職種の役割を理解できる。			
[実習内容] 1 実習施設の機能、利用者の状況、地域での役割を理解する。 2 利用者との様々な関わりの中で、アセスメント能力を身につける。 3 アセスメントをする過程で利用者の希望やニーズを把握し、利用者の潜在能力や、意欲を引き出すためのコミュニケーション方法や利用者にあったより良い生活支援技術を習得する。 4 アセスメントシートの記録方法を習得する。観察したこと、関わりの中で把握したこと、指導者から情報を得たこと等、様々な角度から得た情報を各項目に記録し、利用者の思いや、根拠、残存能力や、ニーズを探る。 5 指導者の使っている介護専門用語の意味や援助の内容を理解しながら、実習で学んだ内容を具体的に的確に記録する。 6 利用者個々によりより良い援助を提供するための各職種との連携の方法やカンファレンスのあり方について理解する。 7 在宅サービスに参加することにより、住み慣れた地域、在宅で生活する要介護者や家族の思いや、サービスを提供する職員との関係、介護用品（機器）などの工夫を観察し、在宅介護について考える。 8 週1回の巡回指導を担当教員が行う。実習への取り組み、意欲、実習内容、記録の確認等実習指導者と連携して指導に取り組む。 9 反省会に出席し、まとめをする。 10 提出物を確認し、実習指導者に提出する。			
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] 実習指導者により、実習評価表の評価項目に沿って評価する。(出席、実習態度、意欲、理解、記録など)	

I G L医療福祉専門学校

別 紙 **【介護実習Ⅰ-③】**

<実習先一覧>

【介護老人福祉施設・特別養護老人ホーム】

五日市あかり園・輝き・神田山長生園・くすのき苑・後楽荘・コスモス園・

さいきせせらぎ園・慈光園・寿光園・正寿園・新生園・瀬野川ホーム・

第二ナーシングホームゆうゆう・谷和の里・千歳園・なごみの郷・

ナーシングホームゆうゆう・百楽荘・ふくだの里・蓬莱園・みくに・三篠園・

やすらぎの里・やすらぎの里広域公園・友愛園・悠悠タウン江波・

湯来保養園・陽光の家・ルンビニ園・レークサイド土師・和楽荘

【介護老人保健施設】

あけぼの・五日市幸楽苑・スカイバード・菜の花・花の丘・原・ピア観音・ひこばえ・

ベルローゼ

【障害者支援施設】

あけぼの・いくせい・太田川学園・光清学園成人部・自然の村・鈴が峰・

サンサンホーム・清風荘・ときわ台ホーム・どんぐり学園・もみじ作業所

【高齢者複合施設】

ショートステイアルペンローゼ

【広島原爆養護老人ホーム】

倉掛のぞみ園

学科名 介護福祉学科	科目名 介護実習Ⅱ	実習責任者 橋口 直樹 実習担当者 田中 加奈子 廣田 敦子 吉村 裕子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数	時間数(単位数) 180時間 (4単位)	配当学年・時期 2学年 前期 後期
[実習のねらい] (1) 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。 (2) 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。 [実習の目標] ・利用者個々の生活リズムや個性に応じた生活支援のあり方を理解することができる。 ・ターミナルケアの理解を深める。 ・チームの一員として介護を遂行することができる。 ・介護福祉士を目指すものとして専門性のあり方を理解できる。 ・介護実習を通して、介護という職業の意義深さ、介護を行う者として働く姿勢、職業倫理を身につけ、常に利用者の人権を守り、介護の本質を探究する基本的な姿勢を身につける。 ・一人の利用者の介護計画の作成、実施、実施後の評価や、これをふまえた計画の修正といった一連の介護過程の展開を理解する。 ・「介護Ⅰ」と「介護過程」で学んだ思考のプロセスを実際の利用者を受け持つことにより実践する。 ・実習指導者の指導のもとに、ICFの視点に立った生活支援技術を習得する。 ・施設等の職員から受けた指導を通して、介護過程の展開を理解する中で、介護福祉士としての責任を果たす能力や態度を養う。			
[実習内容] 1 アセスメント・介護計画の立案のための利用者を一人受け持つ。 2 実習指導者との連携のもとに、利用者のプライバシーや人権を尊重した姿勢で、利用者の生活における課題を明確にするために必要な情報収集を行う。 3 個々の利用者の生活背景や生活リズムを理解し必要な情報を収集する。 4 自立支援の立場から、利用者の生活課題を明確にする。 5 アセスメントによって明確になった課題に対して利用者や介護職員と相談しながら実行可能な介護計画を立てる。 6 介護計画に基づき実施する。(適切な介護が実践できるように留意する) 7 自ら行った介護の評価や計画の見直しを行う。 8 「介護過程の展開」の理解や「介護計画」の作成を通して、利用者の状況に応じたコミュニケーションの方法や、様々な場面の生活支援の方法を習得する。 9 カンファレンスに参加し、一連の介護過程におけるカンファレンスの位置づけや、機能を理解する。 10 生活援助を通して、個々の利用者が安心して生活できるための環境づくりや、健康管理、アクティビティーなどを把握し、介護福祉士の役割について考える。 11 ターミナルケアの理解を深める 12 記録の種類や管理の方法、プライバシーの保護、職員の共通理解を図るための申し送りや、会議について理解する。 13 巡回教員は、記録を通して学生が感じ取ったことを受け入れ、今後どのように経験を重ねて新たな自己を構築していくかという道筋を、実習生自ら考えていけるよう指導する。			
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] 実習指導者により、実習評価表の評価項目に沿って評価する。 (出席、実習態度、意欲、理解、記録など)	

別 紙 【介護実習Ⅱ】

<実習先一覧>

【介護老人福祉施設・特別養護老人ホーム】

五日市あかり園・輝き・神田山長生園・くすのき苑・後楽荘・コスモス園・

さいきせせらぎ園・慈光園・寿光園・正寿園・新生園・瀬野川ホーム・

第二ナーシングホームゆうゆう・谷和の里・千歳園・なごみの郷・

ナーシングホームゆうゆう・百楽荘・ふくだの里・蓬莱園・みくに・三篠園・

やすらぎの里・やすらぎの里広域公園・友愛園・悠悠タウン江波・

湯来保養園・陽光の家・ルンビニ園・レークサイド土師・和楽荘

【介護老人保健施設】

あけぼの・五日市幸楽苑・スカイバード・菜の花・花の丘・原・ピア観音・ひこばえ・

ベルローゼ

【障害者支援施設】

あけぼの・いくせい・太田川学園・光清学園成人部・自然の村・鈴が峰・

サンサンホーム・清風荘・ときわ台ホーム・どんぐり学園・もみじ作業所

【高齢者複合施設】

ショートステイアルペンローゼ

【広島原爆養護老人ホーム】

倉掛のぞみ園

2025年度授業概要

必修

学科名 介護福祉学科		科目名 発達と老化の理解A		担当者 後藤 実宝子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1学年 前期 後期	
[目的・ねらい] 人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。					
[内容の概要] ライフサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴と発達を踏まえ、各段階に応じた生活支援の在り方を学ぶ。また、発達の観点から老化を理解し、老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や疾病と生活への影響等、生活を支援するための基礎的な知識を学ぶ。なお到達目標の確認のため、小テストを実施する。					
[終了時の達成課題（到達目標）] ○ライフサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病について理解できる ○老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や高齢者に多くみられる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活の支援について理解できる					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1. オリエンテーション、成長・発達の考え方、成長・発達の原則・法則 2. 成長・発達に影響する要因 3. 発達理論、発達段階と発達課題 4. 身体機能の成長と発達 5. 心理的機能の発達 6. 社会的機能の発達 7. 老年期の定義、老化とは 8. 老年期の発達段階① 9. 老年期の発達段階② 10. 老年期をめぐる今日的課題 11. 老化にともなう心理的な変化と生活への影響① 12. 老化にともなう心理的な変化と生活への影響② 13. 老化にともなう社会的な変化と生活への影響① 14. 老化にともなう社会的な変化と生活への影響② 15. まとめ					
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解 中央法規出版				[単位認定の方法及び基準] 期末試験・小テスト等の総合評価	

学科名 介護福祉学科		科目名 発達と老化の理解 B		担当者 後藤 実宝子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 1 5 回	時間数(単位数) 3 0 時間 (2 単位)		配当学年・時期 1 学年 前期 後期
[目的・ねらい] 近年、介護福祉士としても医療依存度の高い利用者・当事者への対応が求められ、福祉関連職種の資格試験等においても、医療的な知識が多く問われるようになってきている。また、多職種連携が求められる観点からも、これらの知識は必須である。 本講義では、高齢者に多くみられる症状・疾患を学びながら医学的知識を深める学習とする。					
[内容の概要] 老化に伴う身体的な変化や疾病と生活への影響等、生活を支援するための基礎的な知識を学ぶ。なお到達目標の確認のため、小テストを実施する。					
[修了時の達成課題（到達目標）] ○老化にともなう身体的な変化と生活への影響が理解できる ○高齢者に多くみられる症状・疾患を学びながら医学的知識を得る ○保険医療職との連携の在り方を理解できる					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1. 老化にともなう身体的な変化と生活への影響① 2. 老化にともなう身体的な変化と生活への影響② 3. 健康長寿に向けての健康、高齢者の症状・疾患の特徴 4. 高齢者に多い症状・疾患 骨格系・筋系 5. 高齢者に多い症状・疾患 脳・神経系 6. 高齢者に多い症状・疾患 皮膚・感覚器系・歯・口腔疾患 7. 高齢者に多い症状・疾患 循環器系 8. 高齢者に多い症状・疾患 呼吸器系 9. 高齢者に多い症状・疾患 消化器系 10. 高齢者に多い症状・疾患 腎・泌尿器系 11. 高齢者に多い症状・疾患 内分泌・代謝系 12. 高齢者に多い症状・疾患 歯・口腔疾患、悪性新生物（がん） 13. 高齢者に多い症状・疾患 感染症 14. 高齢者に多い症状・疾患 精神疾患、その他 15. 保健医療職との連携・まとめ					
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解 中央法規出版				[単位認定の方法及び基準] 期末試験・小テスト等の総合評価	

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 介護福祉学科		科目名 認知症の理解A		担当者 日高 澄子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 1 5 回	時間数(単位数) 3 0 時間 (2 単位)		配当学年・時期 1 学年 前期 後期
1 授業の目的・ねらい 認知症に関する基礎知識を習得するとともに、認知症のある人の体験を通して意思表示が困難な特性を理解して、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。					
2 授業全体の内容の概要 医学的側面からみた認知症の基礎、心と身体の変化と生活、認知症を取り巻く状況を概説する。					
3 授業終了時の達成課題（達成目標） ・ 認知症とは何か、認知症ケアの理念と視点を説明できる。 ・ 認知症の原因疾患とその特徴について説明できる。 ・ 認知症の中核症状と BPSD について説明できる。 ・ 認知症の人の心理について説明できる。					
4 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法 1. 認知症の現状と今後・認知症とは何か 2. 脳のしくみ 3. 認知症の中核症状Ⅰ 4. 認知症の中核症状Ⅱ 5. BPSD の理解Ⅰ 6. BPSD の理解Ⅱ 7. 認知症の人の心理 生活障害の理解 8. 認知症の診断と重症度 9. 認知症の原因疾患と症状・生活障害Ⅰ 10. 認知症の原因疾患と症状・生活障害Ⅱ 11. 認知症の治療薬 12. 認知症の予防 13. 認知症を取り巻く状況 14. 認知症ケアの理念と視点・認知症当事者の視点 15. まとめ・確認テスト					
使用テキスト・参考文献 最新・介護福祉士養成講座 13 第 2 版 認知症の理解 中央法規			単位認定の方法及び基準 出席・授業参加度 2 0 % 確認テスト 2 0 % 期末試験 6 0 % の総合により評価		

I G L 医療福祉専門学校

2025年度授業概要

必修

学科名 介護福祉学科		科目名 認知症の理解B		担当者 日高 澄子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)		配当学年・時期 1学年 前期 後期
[授業の目的・ねらい] 認知症の人にかかわる際の基本的な姿勢を学ぶとともに、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基本的な知識を習得する。					
[授業全体の内容の概要] 認知症になっても、これまでの生活を続けるために必要な事柄を学び、専門職として生活の継続にどのようにかかわれば良いか具体的な対応を考える。認知症を支える家族への支援、地域サポート体制を学ぶ。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ・ 認知症の人の生活および家族や社会とのかかわりへの影響を理解し、その人の特性を踏まえたアセスメントを行い、本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践につなぐことができる。 ・ 地域で支えるサポート体制、多職種連携・協働による支援について理解できる。 ・ 家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援につなぐことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. パーソン・センタード・ケア 2. 認知症のアセスメント・ツール 3. 認知症の人とのコミュニケーション 4. 認知症の人へのケア：食事・排泄 5. 認知症の人へのケア：入浴・清潔保持のケア 6. 認知症の人へのケア：休息と睡眠・活動・生きがいのケア 7. 認知症の人へのケア：BPSDのケア 8. 認知症の人へのアプローチ 9. 認知症の人の終末期医療と介護 10. 認知症の環境づくり 11. 家族支援 12. 介護福祉士への支援 13. 制度・サービス・機関・地域づくり 14. 多職種連携と協働 15. まとめ・確認テスト					
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 出席・授業参加度 20% 単位認定試験 80%		

学科名 介護福祉学科		科目名 障害の理解A		担当者 森木 聡人	
種類 (<u>講義</u> ・ 演習 ・ 実習)		回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 1学年 前期 <u>後期</u>	
[授業の目的・ねらい] 障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、 障害のある人の地域での生活を理解し、本人・家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理 解するための基礎的な知識を習得する学習とする。					
[授業全体の内容の概要] 介護福祉士が障害のある人と向き合うための基本的な知識、障害種別ごとの身体的・心理 的側面を踏まえた生活とそれに応じた支援について学ぶ。障害のある人の地域生活を支える 様々な社会資源・関係機関との連携や、関係職種とのチームアプローチの在り方を学ぶ。障 害のある人を支える家族支援の在り方を学ぶ。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 障害のある人の生活を支援するという観点から、障害の特性、制度など基本的な知識を理解できる					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 <u>障害の基本的理解①</u> 障害の概念 2 <u>障害の基本的理解②</u> 障害者福祉の基本理念① 3 <u>障害の基本的理解③</u> 障害者福祉の基本理念② 4 <u>障害の基本的理解④</u> 障害者福祉に関連する制度 5 <u>障害の基本的理解⑤</u> 障害者福祉制度と介護保険制度 6 <u>障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援</u> ・障害のある人の心理 7 <u>障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援</u> ・肢体不自由(運動機能障害)① 8 <u>障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援</u> ・肢体不自由(運動機能障害)② 9 <u>障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援</u> ・視覚障害 10 <u>障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援</u> ・聴覚・言語障害 11 <u>障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援</u> ・重複障害 12 <u>障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援</u> ・内部障害① 13 <u>障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援</u> ・内部障害② 14 <u>障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援</u> ・内部障害③ 15 <u>障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援</u> ・内部障害④／重度心身障害					
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座 14 障害の理解 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 期末試験・出席状況・授業態度・課題の総合評価		

2025年度授業概要

必修

学科名 介護福祉学科	科目名 障害の理解 B		担当者 森木 聡人
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数 15 回	時間数(単位数) 3 0 時間 (2 単位)	配当学年・時期 2 学年 前期 後期
[授業の目的・ねらい] 障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人・家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。			
[授業全体の内容の概要] 介護福祉士が障害のある人と向き合うための基本的な知識、障害種別ごとの身体的・心理的側面を踏まえた生活とそれに応じた支援について学ぶ。障害のある人の地域生活を支える様々な社会資源・関係機関との連携や、関係職種とのチームアプローチの在り方を学ぶ。障害のある人を支える家族支援の在り方を学ぶ。			
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 障害のある人の生活を支援するという観点から、障害の特性、制度など基本的な知識を理解できる			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. 障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援／重度心身障害 2. 障害別の基本的理解と特性に応じた支援①知的障害 3. 障害別の基本的理解と特性に応じた支援②精神障害 4. 障害別の基本的理解と特性に応じた支援③-1 高次脳機能障害 5. 障害別の基本的理解と特性に応じた支援③-2 高次脳機能障害（動画視聴） 6. 障害別の基本的理解と特性に応じた支援④発達障害 7. 強度行動障害のある人の「暮らし」を支える（DVD視聴） 8. 障害別の基本的理解と特性に応じた支援⑤難病 9. 連携と協働①地域のサポート体制 10. 連携と協働②チームアプローチ 11. 災害時の介護を考える「逃げ遅れる人々東日本大震災と障害者」（DVD視聴） 12. 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム 13. 家族への支援①家族への支援とは 14. 家族への支援②家族の介護力の評価と介護負担の軽減 15. 「障害についての私の考え」発表			
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座 14 障害の理解 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 期末試験・出席状況・授業態度・課題の総合評価

2025年度授業概要

必修

学科名 介護福祉学科		科目名 こころとからだのしくみA		担当者 後藤 実宝子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 1 5 回	時間数(単位数) 3 0 時間 (2 単位)		配当学年・時期 1 学年 前期 後期
[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理や人体の構造・機能を理解する学習とする。					
[授業全体の内容の概要] 解剖学・生理学・運動学・心理学等をもとに、人が生活するうえでこころとからだのしくみがどのように働くかを示し、介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる知識を学ぶ。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] こころとからだの両面から利用者の状態を見て、その状態がどのような要因から引き起こされているか、その根拠となる知識を学ぶ。利用者の尊厳の尊重と、自立の支援をするための適切な介護の方法を導きだすことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. オリエンテーション、健康とは何か① 2. 健康とは何か② 3. こころのしくみの理解① 人間の欲求 自己実現と尊厳 4. こころのしくみの理解② 発達段階 グループワーク準備 5. こころのしくみの理解③ 発達段階 グループワーク発表 6. こころのしくみの理解④ こころ、脳、認知のしくみ 7. こころのしくみの理解⑤ 学習・記憶・思考、感情・情動、意欲・動機づけのしくみ 8. こころのしくみの理解⑥ 適応のしくみ 9. からだのしくみの理解① 身体各部の名称、全身の骨格 10. からだのしくみの理解② 代表的な骨格筋、細胞・遺伝 11. からだのしくみの理解③ 脳・神経（ALS・パーキンソン病含む）① 12. からだのしくみの理解④ 脳・神経（ALS・パーキンソン病含む）②、感覚器① 13. からだのしくみの理解⑤ 感覚器② 14. からだのしくみの理解⑥ 呼吸器① 15. からだのしくみの理解⑦ 呼吸器②、まとめ					
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座11、12 こころとからだのしくみ 発達と老化の理解 中央法規出版				[単位認定の方法及び基準] 期末試験・小テスト等の総合評価	

2025年度授業概要

必修

学科名 介護福祉学科		科目名 こころとからだのしくみB		担当者 後藤 実宝子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 1 5 回	時間数(単位数) 3 0 時間 (2 単位)		配当学年・時期 1 学年 前期 後期
[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理や人体の構造・機能を理解する学習とする。					
[授業全体の内容の概要] 解剖学・生理学・運動学・心理学等をもとに、人が生活するうえでこころとからだのしくみがどのように働くかを示し、介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる知識を学ぶ。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] こころとからだの両面から利用者の状態を見て、その状態がどのような要因から引き起こされているか、その根拠となる知識を学ぶ。利用者の尊厳の尊重と、自立の支援をするための適切な介護の方法を導きだすことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. からだのしくみの理解⑧ 循環器① 2. からだのしくみの理解⑨ 循環器② 3. からだのしくみの理解⑩ 消化器① 4. からだのしくみの理解⑪ 消化器② 5. からだのしくみの理解⑫ 泌尿器① 6. からだのしくみの理解⑬ 泌尿器② 7. からだのしくみの理解⑭ 骨・筋肉・関節（悪性関節リウマチ・筋ジストロフィー含む）① 8. からだのしくみの理解⑮ 骨・筋肉・関節（悪性関節リウマチ・筋ジストロフィー含む）② 9. からだのしくみの理解⑰ 神経系、生殖器・内分泌① 10. からだのしくみの理解⑱ 神経系、生殖器・内分泌② 11. からだのしくみの理解⑲ 血液・体液・リンパ液 12. からだのしくみの理解⑳ ホメオスタシス、心身の調和、生命を維持する徴候の観察 13. からだのしくみの理解㉑ バイタルサイン測定 14. からだのしくみの理解㉒ 介護福祉職に必要な薬の知識 15. まとめ					
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座11、12 こころとからだのしくみ 発達と老化の理解 中央法規出版				[単位認定の方法及び基準] 期末試験・小テスト等の総合評価	

I G L 医療福祉専門学校

学科名 介護福祉学科	科目名 こころとからだのしくみC	担当者 後藤 実宝子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 学年 前期 後期
[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理や人体の構造・機能を理解する学習とする。			
[授業全体の内容の概要] 移動・身じたく・入浴・排泄等の生活場面ごとに、こころとからだのしくみ、心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響、変化に対する観察のポイント、医療職との連携のポイント等を学ぶ。			
[授業修了時の達成課題（到達目標）] こころとからだの両面から利用者の状態を見て、その状態がどのような要因から引き起こされているか、その根拠となる知識を学ぶ。そこから潜在能力を引き出し、利用者の尊厳の尊重と、自立の支援をするための適切な介護の方法を導きだすことができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. 移動に関連したこころとからだのしくみ① 基本的な姿勢、移動に関連したからだのしくみ 2. 移動に関連したこころとからだのしくみ② 心身の機能低下が移動に及ぼす影響、変化の気づきと対応 3. 身じたくに関連したこころとからだのしくみ① 身じたくの目的、顔面・眼・耳・鼻・爪・毛髪 4. 身じたくに関連したこころとからだのしくみ② 口腔の構造と機能・舌、洗顔のしくみ 5. 身じたくに関連したこころとからだのしくみ③ 変化の気づきと対応 6. 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ① 入浴・清潔保持のしくみ 7. 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ② 心身機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響① 8. 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ③ 心身機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響② 9. 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ④ 変化の気づきと対応 10. 排泄に関連したこころとからだのしくみ① 排泄の目的、生理的意味の理解、排尿、排便のしくみ 11. 排泄に関連したこころとからだのしくみ② 人工膀胱・人工肛門のしくみ 12. 排泄に関連したこころとからだのしくみ③ 排泄の機能低下の原因とその影響の理解① 13. 排泄に関連したこころとからだのしくみ④ 排泄の機能低下の原因とその影響の理解② 14. 排泄に関連したこころとからだのしくみ⑤ 変化の気づきと対応 15. まとめ			
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] 期末試験・小テスト等の総合評価	

2025年度授業概要

必修

学科名 介護福祉学科		科目名 こころとからだのしくみD		担当者 後藤 実宝子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)		配当学年・時期 2学年 前期 後期
[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理や人体の構造・機能を理解する学習とする。					
[授業全体の内容の概要] 食事・休息睡眠・人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ等の生活場面ごとに、こころとからだのしくみ、心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響、変化に対する観察のポイント、医療職との連携のポイント等を学ぶ。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] こころとからだの両面から利用者の状態を見て、その状態がどのような要因から引き起こされているか、その根拠となる知識を学ぶ。そこから潜在能力を引き出し、利用者の尊厳の尊重と、自立の支援をするための適切な介護の方法を導きだすことができる。					
[授業の日程と各界のテーマ・内容・授業方法] 1. 食事に関連したこころとからだのしくみ① 食事の目的と1日に必要な栄養素 2. 食事に関連したこころとからだのしくみ② 摂食と嚥下に関する構造と機能の理解 3. 食事に関連したこころとからだのしくみ③ 心身の機能低下が食事に及ぼす影響 4. 食事に関連したこころとからだのしくみ④ 変化の気づきと対応・KYT 5. 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ① 睡眠の目的・睡眠のしくみ 6. 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ② 心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響 7. 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ③ 変化に気づくためのポイント 8. 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ① 「死」のとりえ方① 9. 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ② 「死」のとりえ方② 10. 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ③ 「死」に対するこころの理解 11. 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ④ 終末期から死後のからだの理解 12. 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ⑤ 介護観の構築 13. 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ⑥ 医療職との連携 14. 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ⑦ 死後の処置 15. 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ⑧ 死のシミュレーション体験					
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ 中央法規出版				[単位認定の方法及び基準] 期末試験・小テスト等の総合評価	

学科名 介護福祉学科	科目名 医療的ケア I	担当者 小川輝子
種類 (講義・演習・実習)	回数 17回	時間数(単位数) 34時間(2単位)
		配当学年・時期 2学年 前期
[授業の目的・ねらい] 医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。		
[授業全体の内容の概要] 医療的ケア実施に必要な基礎的知識を学ぶ。 根拠に基づき安全に医療的ケア(主に経管栄養)を行うための、基礎的知識・技術を学ぶ。		
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 1. 医療的ケアの実施に関する制度の概要を理解できる。 2. 「経管栄養」を安全に実施するための基本知識・実施手順を理解できる。 3. 医療的ケアが必要な利用者・家族の気持ちを理解できる。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]		
回	内 容	授業方法・キーワード
1回	<u>医療的ケア実施の基礎①</u>	1) 医療的ケアとは 2) 医行為について 3) 医療倫理①
2回	<u>医療的ケア実施の基礎②</u>	1) 医療倫理②(GW) 2) 喀痰吸引等制度①
3回	<u>医療的ケア実施の基礎③</u>	1) 喀痰吸引等制度② 2) 医療的ケアと喀痰吸引等の背景
4回	<u>医療的ケア実施の基礎④</u>	2) その他の制度(確認・復習プリント)
5回	<u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)①</u>	消化器系のしくみとはたらき(確認プリント)
6回	<u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)②</u>	1) 消化・吸収とよくある消化器の症状 2) 経管栄養とは
7回	<u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)③</u>	1) 注入する内容に関する知識 2) 経管栄養実施上の留意点
8回	<u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)④</u>	子どもの経管栄養について
9回	<u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)⑤</u>	1) 利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 2) 経管栄養に係る感染と予防
10回	<u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)⑥</u>	経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認
11回	<u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)⑦</u>	急変・事故発生時の対応と事前対策
12回	<u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)⑧</u>	1) 経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、 清潔の保持 2) 経管栄養の技術と留意点①
13回	<u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)⑨</u>	経管栄養の技術と留意点② 滴下速度の計算
14回	<u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)⑩</u>	経管栄養の技術と留意点③
15回	<u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)⑪</u>	経管栄養の技術と留意点④ 経管栄養に必要なケア、 報告及び記録
16回	<u>経管栄養(基礎的知識・実施手順)⑫</u>	経管栄養の技術と留意点⑤
17回	高齢者及び障がい児・者の「経管栄養」まとめ	確認テスト(主に経管栄養)
[使用テキスト・参考文献] 最新介護福祉全書 15 医療的ケア 中央法規出版 MINER VA 福祉資格テキスト 医療的ケア ミネルヴァ書房 2013 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト 中央法規 2012		[単位認定の方法及び基準] 試験・授業態度・課題・出席状況の総合評価とする <u>* 確認テストにおいては、総正解率が9割以上の者を合格とし、合格しなければ演習の授業に進めない(介護福祉法施行規則)</u>

学科名 介護福祉学科	科目名 医療的ケアⅡ		担当者 森山 薫
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数 17 回	時間数(単位数) 34 時間 (2 単位)	配当学年・時期 2 学年 前期 後期
[授業の目的・ねらい] 医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。			
[授業全体の内容の概要] 個人の尊厳・保健医療等の制度・喀痰吸引の清潔・感染予防について学ぶ。 安全に医療的ケアを行うための、知識・技術を学ぶ。			
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 医療的ケアが必要な利用者・家族が気持ちを理解できる。 2. 医療的ケアにおける他職種との連携の理解ができる 3. 医療的ケアにおける身体の解剖・生理・感染予防を理解できる。 4. 「痰吸引」に関する呼吸器の構造・働きや感染予防・呼吸管理方法を理解できる。 5. 「痰吸引」の基本的な留意点と技術が理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回	内 容	キーワード	
1 回	医療的ケア実施の基礎①	医療行為でない行為 19 項目①	
2 回	医療的ケア実施の基礎②	医療行為でない行為 19 項目②	
3 回	医療的ケア実施の基礎③	救急蘇生法について①	
4 回	医療的ケア実施の基礎④	救急蘇生法について②	
5 回	医療的ケア実施の基礎⑤ 清潔保持と感染予防①	清潔保持と感染予防	
6 回	医療的ケア実施の基礎⑥ 清潔保持と感染予防②	療養環境の清潔、消毒法、消毒と滅菌	
7 回	医療的ケア実施の基礎⑦ 健康状態の把握①	健康状態の把握	
8 回	医療的ケア実施の基礎⑧ 健康状態の把握②	急変状態について	
9 回	喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）①	呼吸のしくみとはたらき、いつもと違う呼吸状態	
10 回	喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）②	喀痰吸引とは （痰の正常・異常）	
11 回	喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）③	人工呼吸器と吸引	
12 回	喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）④	子どもの吸引について、吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意、呼吸器系の感染と予防	
13 回	喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）⑤	喀痰吸引により生じる危険・事後の安全確認 急変・事故発生時の対応と事前対策	
14 回	喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）⑥	喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持	
15 回	喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）⑦	吸引の技術と留意点、喀痰吸引にともなうケア①	
16 回	喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）⑧	吸引の技術と留意点、喀痰吸引にともなうケア②	
17 回	まとめ	小テスト（主に喀痰吸引）	
[使用テキスト・参考文献] 最新介護福祉全書 15 医療的ケア 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] 学期末試験等 ＊確認テストにおいては、9 割以上の者を合格とし、合格しなければ演習の授業に進めない（介護福祉法施行規則）	

学科名 介護福祉学科	科目名 医療的ケアⅢ		担当者 森山 薫 ・ 小川 輝子
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数 15 回	時間数(単位数) 30 時間(1 単位)	配当学年・時期 2 学年 前期 後期
[授業の目的・ねらい] 医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。 [授業全体の内容の概要] 喀痰吸引については 口腔・鼻腔・気管カニューレ内部:各 5 回以上 経管栄養については 経鼻経管栄養・胃ろう又は腸ろう:各 5 回以上 各項目ごとに実技試験を実施する 救命蘇生法については広島市消防局が行う「普通救命講習Ⅰ」を受講する [授業修了時の達成課題(到達目標)] 1. 「喀痰吸引」「経管栄養」を安全に実施するための基本技術を習得できる。 2. 「喀痰吸引」「経管栄養」の基本的な留意点が言える。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
回	内 容	授業方法・キーワード クラスA	授業方法・キーワード クラスB
1 回	演習	演習のオリエンテーション	
2・3回	演習	救命蘇生法 DVD 視聴 救命蘇生演習(ジャージ着用) (授業前に名前・住所の確認必要)	
4 回	演習	喀痰吸引デモンストレーション	経管栄養デモンストレーション
5 回	演習	・口腔・鼻腔内吸引	・経鼻経管栄養チューブ
6 回	演習	・気管カニューレ内吸引	・胃ろう(半固形栄養剤)
7 回	演習	実技試験	実技試験
8 回	演習		
9 回	演習		
10回	演習	経管栄養デモンストレーション	喀痰吸引デモンストレーション
11回	演習	・経鼻経管栄養チューブ	・口腔・鼻腔内吸引
12回	演習	・胃ろう(半固形栄養剤)	・気管カニューレ内吸引
13回	演習	実技試験	実技試験
14回	演習		
15回	演習		
[使用テキスト・ 参考文献]	最新介護福祉全書 15 医療的ケア 中央法規出版 MINERVA 福祉資格テキスト 医療的ケア ミネルヴァ書房 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト 中央法規出版		
[単位認定の方法 及び基準]	実技試験・授業態度(私語・服装チェック)・出席状況の総合評価 ※評価基準に達していないものは、基準に達するまで補講を受ける必要がある。 ※救急蘇生法を受けなかった場合、各自で広島市消防局等での講習を受講しなければならない		

学科名 介護福祉学科		科目名 DTと就職実務		担当者 田中 加奈子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)		配当学年・時期 2学年 前期 後期
[授業の目的・ねらい]					
高齢者自ら生きる意欲を維持する為と、尊厳のある生活を維持することを目的とし、一人ひとりの生き方を大切にし、より自律的に生きることを支える支援者のあり方とその手法としてダイバーショナルセラピーを学ぶ。					
就職活動をスムーズに行うために、就職に関する情報や対策を学ぶ機会とする					
[授業全体の内容の概要]					
オーストラリアのダイバーショナルセラピーの実際から、日本の介護に活用する。現場実践の体験により、今後求められる介護のあり方を学ぶ。					
就職活動を行う際に必要な知識と技術を学ぶ。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)]					
DTセラピストとしての認定証を取得できる					
学生が望む就職先を決定できる					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
1. 就職活動について①					
2. DTの理念・効果					
3. DTの実際①					
4. DTの実際②					
5. DTの実際③					
6. DTの実際④					
7. 就職ガイダンス					
8. アセスメントに向けて DT計画～実施					
9. 施設見学・アセスメント方法について考える					
10. アセスメント訪問					
11. DT計画・プラン作成①					
12. DT計画・プラン作成②					
13. DT検定					
14. 就職活動について②					
15. グループ発表・総括					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
			DT検定を行う。授業態度、出席の状況を総合的に判断して評価を行う。		

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 介護福祉学科		科目名 人間と社会 特講A		担当者 田中 加奈子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 1 5 回	時間数(単位数) 3 0 時間 (2 単位)		配当学年・時期 2 学年 前期 後期
[授業の目的・ねらい]					
「人間の尊厳と自立」と「人間関係とコミュニケーション」では、これまでの学習内容を踏まえて、総合的に考える力を身につける。					
「社会の理解」では、介護福祉士の仕事に必要な制度や施策についての理解を深める。					
[授業全体の内容の概要]					
社会の理解を中心に、人間と社会の分野について概説する					
[授業修了時の達成課題（到達目標）]					
効果的な学習ができ、介護福祉士国家試験に合格できるレベルに達することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
1. オリエンテーション、人間の尊厳と自立Ⅰ					
2. 人間の尊厳と自立Ⅱ、人間関係とコミュニケーションⅠ					
3. 人間関係とコミュニケーションⅡ					
4. 社会の理解A 社会と生活のしくみ、地域共生社会の実現に向けた制度や施策Ⅰ					
5. 社会の理解A 社会と生活のしくみ、地域共生社会の実現に向けた制度や施策Ⅱ					
6. 社会の理解A 社会保障制度Ⅰ					
7. 社会の理解A 社会保障制度Ⅱ					
8. 模擬テスト					
9. 社会の理解B 高齢者保健福祉と介護保険制度Ⅰ					
10. 社会の理解B 高齢者保健福祉と介護保険制度Ⅱ					
11. 社会の理解B 障害者保健福祉と障害者総合支援制度Ⅰ					
12. 社会の理解B 障害者保健福祉と障害者総合支援制度Ⅱ					
13. 社会の理解B 介護実践に関連する諸制度Ⅰ					
14. 社会の理解B 介護実践に関連する諸制度Ⅱ					
15. まとめ					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
新・介護福祉士養成講座 1 人間の理解			期末試験はしない。授業態度、ミニテストの状況を総合的に判断して評価を行う。		
新・介護福祉士養成講座 2 社会と制度の理解					
中央法規出版					

I G L 医療福祉専門学校

2025年度授業概要

必修

学科名 介護福祉学科		科目名 人間と社会 特講B		担当者 田中 加奈子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 10回	時間数(単位数) 20時間 (1単位)		配当学年・時期 2学年 前期 後期
[授業の目的・ねらい] 問題演習および模擬テストにより、自己の学習進捗状況を知り、学習課題を焦点化する。国家試験の問題内容に慣れることにより、国家試験の問題を読み解くことに慣れる。					
[授業全体の内容の概要] この授業では、問題演習と模擬テストを行い介護福祉士国家試験の問題に慣れていく。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 介護福祉士国家試験合格を到達目標とする。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. オリエンテーション、問題演習① 2. 問題演習② 3. 問題演習③ 4. 問題演習④ 5. 問題演習⑤ 6. 模擬試験 7. 問題演習⑥ 8. 問題演習⑦ 9. 問題演習⑧ 10. まとめテスト					
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座 1 人間の理解 新・介護福祉士養成講座 2 社会と制度の理解 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 期末試験はしない。授業態度、模擬試験、まとめテストの結果を総合的に判断して評価を行う。		

2025年度授業概要

必修

学科名 介護福祉学科		科目名 介護福祉学特講A		担当者 廣田 敦子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 1 0 回	時間数(単位数) 2 0 時間 (1 単位)		配当学年・時期 2 学年 前期 後期
[授業の目的・ねらい] 問題演習および模擬テストにより、自己の学習進捗状況を知り、学習課題を焦点化する。国家試験の問題に慣れることにより、問題を読み解くことに慣れる。					
[授業全体の内容の概要] この授業では、問題演習と模擬テストを行い国家試験の問題に慣れる。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 国家試験合格					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 オリエンテーション・模擬試験① 2 問題演習① 3 問題演習② 4 問題演習③ 5 問題演習④ 6 問題演習⑤ 7 問題演習⑥ 8 問題演習⑦ 9 問題演習⑧ 10 確認テスト ※ 進行具合により、小テストを行う。					
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉用語辞典 中央法規出版 新・介護福祉士養成講座 3 介護の基本Ⅰ 新・介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ			[単位認定の方法及び基準] 確認テスト及び小テスト 授業態度、出欠席にて判定		

学科名 介護福祉学科		科目名 介護福祉学特講B		担当者 廣田 敦子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 10回	時間数(単位数) 20時間(1単位)		配当学年・時期 2学年 前期 後期
[目的・ねらい] ・問題演習及び模擬テストにより、自己の学習進捗状況を知り、学習課題を抽出する。 ・国家試験の問題内容に慣れることにより、国家試験の試験問題を読み解くことに慣れる。					
[内容の概要] ・問題演習と模擬テストを行い、介護福祉士国家試験の問題に慣れる。					
[修了時の達成課題(到達目標)] 介護福祉士国家試験合格を到達目標とする。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 問題演習① 2. 問題演習② 3. 問題演習③ 4. 問題演習④ 5. 問題演習⑤ 6. 模擬試験(第2回) 7. 問題演習⑥ 8. 問題演習⑦ 9. 問題演習⑧ 10. 総合テスト					
[使用テキスト・参考文献] ○新・介護福祉士養成講座 6.7.8 ○介護福祉用語辞典 ○介護福祉士国家試験過去問題 ○介護福祉士国家試験模擬問題集 ○その他国家試験対策問題 等			[単位認定の方法及び基準] 小テスト及び授業態度、提出物、 出欠席にて判定を行う。		

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 介護福祉学科		科目名 介護福祉学特講C		担当者 吉村 裕子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 1 0 回	時間数(単位数) 2 0 時間 (1 単位)		配当学年・時期 2 学年 前期 後期
[目的・ねらい] ・問題演習および模擬テストにより、自己の学習進捗状況を知り、学習課題を焦点化する。 ・国家試験の問題内容に慣れることにより、国家試験の問題を読み解くことに慣れる。					
[内容の概要] ・問題演習と模擬テストを行い、介護福祉士国家試験の問題に慣れていく。					
[修了時の達成課題（到達目標）] ・介護福祉士国家試験合格を到達目標とする。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. オリエンテーション、問題演習① 2. 問題演習② 3. 問題演習③ 4. 問題演習④ 5. 問題演習⑤ 6. 模擬試験 7. 問題演習⑥ 8. 問題演習⑦ 9. 問題演習⑧ 10. まとめテスト					
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座 5 最新・介護福祉士養成講座 6 最新・介護福祉士養成講座 7 最新・介護福祉士養成講座 8 中央法規			[単位認定の方法及び基準] 期末試験はしない。授業態度、課題提出、まとめテストを総合的に判断して評価を行う。		

I G L 医療福祉専門学校

2025年度授業概要

必修

学科名 介護福祉学科		科目名 介護福祉学特講D		担当者 橋口 直樹	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 10回	時間数(単位数) 20時間(1単位)		配当学年・時期 2学年 前期 後期
[授業の目的・ねらい] 問題演習により、自己の介護技術進捗状況を知り、課題を焦点化する。国家実技試験の問題に慣れることにより、校内実技試験に対応する。					
[授業全体の内容の概要] この授業では、問題演習と模擬テストを行い学力評価試験・国家試験の問題に慣れる。 また、実技試験に向けて、課題に取り組み校内実技試験に慣れる					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 国家試験合格 校内実技試験合格 就職後の基礎能力向上					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 模擬試験 2 オリエンテーション 総合問題・演習① 3 実技応用① 4 実技応用② 5 実技応用③ 6 実技応用④ 7 総合問題・演習② 8 総合問題・演習③ 9 総合問題・演習④ 10 総合問題・演習⑤・まとめ					
[使用テキスト・参考文献] なし			[単位認定の方法及び基準] 確認テスト及び授業態度、出欠席等にて判定		

I G L 医療福祉専門学校

学科名 介護福祉学科		科目名 こころとからだのしくみ特講A		担当者 田中 加奈子・橋口 直樹 吉村 裕子・廣田 敦子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)		配当学年・時期 2学年 前期 後期
[目的・ねらい] プリント・問題演習およびテストにより、自己の学習進捗状況を知り、学習課題を焦点化する。国家試験の問題内容に慣れることにより、国家試験の問題を読み解く力を養う。 [内容の概要] プリント・問題演習、テストを行い、介護福祉士国家試験の問題になれていく。 [修了時の達成課題(到達目標)] こころとからだの両面から利用者の状態を見て、その状態がどのような要因から引き起こされているか、その根拠となる知識を学び、疾患や老化との関係を、根拠を持って理解することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. オリエンテーション・問題演習① 2. 問題演習② 3. 問題演習③ 4. 問題演習④ 5. 問題演習⑤ 6. 問題演習⑥ 7. 問題演習⑦ 8. 模擬テスト 9. 問題演習⑧ 10. 問題演習⑨ 11. 問題演習⑩ 12. 問題演習⑪ 13. 問題演習⑫ 14. 問題演習⑬ 15. 問題演習⑭					
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ 最新・介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解 最新・介護福祉士養成講座 13 認知症の理解 最新・介護福祉士養成講座 14 障害の理解 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 期末試験はしない。授業態度、小テスト、提出物等の状況を総合的に判断して評価を行う。		

2025年度授業概要

必修

学科名 介護福祉学科		科目名 こころとからだのしくみ特講B		担当者 田中 加奈子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 10回	時間数(単位数) 20時間 (1 単位)		配当学年・時期 2 学年 前期 後期
[授業の目的・ねらい] 問題演習およびテストにより、自己の学習進捗状況を知り、学習課題を焦点化する。国家試験の問題内容に慣れることにより、国家試験の問題を読み解く力を養う。 [授業全体の内容の概要] この授業では、問題演習とテストを行い、介護福祉士国家試験の問題に慣れていく。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 介護福祉士国家試験及び学力評価試験の合格を到達目標とする。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. 模擬試験 2. 問題演習① 3. 問題演習② 4. 問題演習③ 5. 問題演習④ 6. 問題演習⑤ 7. 問題演習⑥ 8. 問題演習⑦ 9. 問題演習⑧ 10. まとめテスト					
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ 最新・介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解 最新・介護福祉士養成講座 13 認知症の理解 最新・介護福祉士養成講座 14 障害の理解 最新・介護福祉士養成講座 15 医療的ケア 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] まとめテスト・模擬試験・課題等にて総合的に判定する。 期末試験は実施しない。		

I G L 医療福祉専門学校